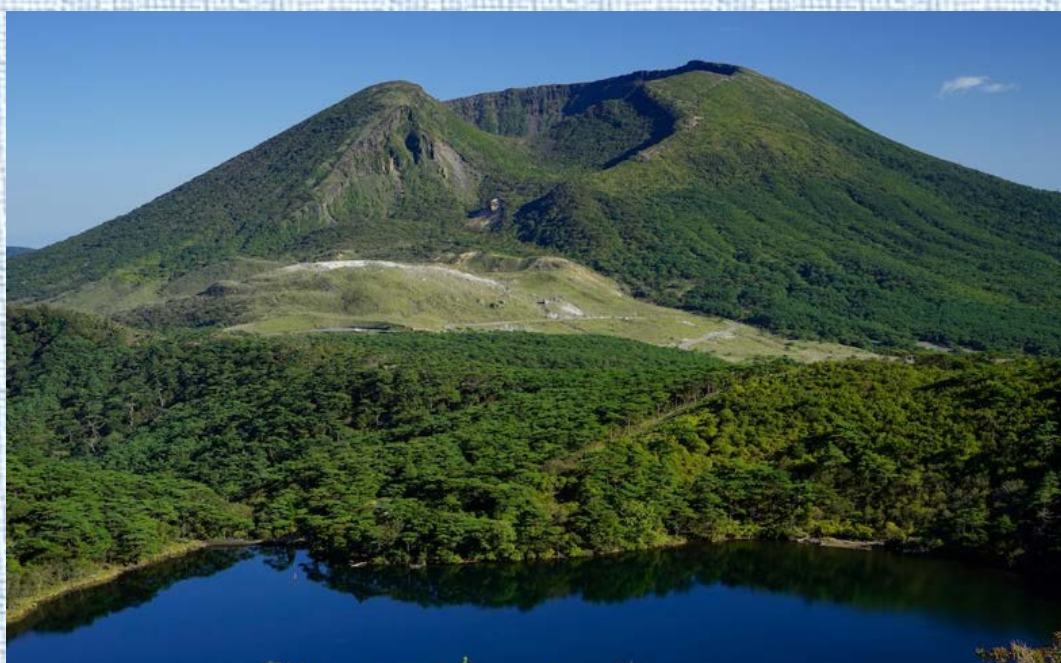


えびの市観光振興計画（素案）

（平成29年度～平成33年度）

霧島山のめぐみ めぐるえびの
～山と水、米と肉。温泉と四季のまち～



えびの市

平成29年3月

～ 目 次 ～

| | |
|---|-----------|
| 1. 計画策定の趣旨 | 3 |
| (1) 計画の目的..... | 3 |
| (2) 計画の位置づけ..... | 3 |
| (3) 計画期間..... | 4 |
| (4) 計画対象範囲..... | 4 |
| 2. えびの市の概況 | 5 |
| (1) 位置..... | 5 |
| (2) 地勢..... | 5 |
| (3) 人口..... | 5 |
| (4) 産業..... | 5 |
| (5) 交通..... | 5 |
| (6) 祭事・イベント..... | 6 |
| (7) 入域観光客数..... | 8 |
| (8) 産業構造..... | 8 |
| (9) 観光資源..... | 9 |
| 3. えびの市の観光の現状と課題 | 16 |
| (1) 観光実態把握調査..... | 16 |
| (2) 現状と問題点(調査結果より)..... | 17 |
| (3) 新えびの市観光振興計画(平成24年度～平成28年度)の進捗と評価..... | 18 |
| (4) 観光振興で特に活かすべき資源..... | 20 |
| (5) 観光推進のための目標..... | 21 |
| (6) 考えるべき重点ターゲット..... | 22 |
| (7) えびの市の観光の課題整理..... | 23 |
| 4. えびの市観光振興計画 | 24 |
| (1) えびの市の観光が目指すべき方向性..... | 24 |
| (2) えびの市観光振興計画の基本施策..... | 25 |
| (3) えびの市観光振興計画の施策体系..... | 26 |
| (4) 観光ゾーニング図..... | 27 |
| (5) 施策の具体的な取組内容..... | 28 |
| (6) 重点プロジェクト..... | 36 |
| (7) 効果把握手法と目標値..... | 39 |
| (8) 施策実施スケジュール..... | 40 |
| (9) 計画の推進体制..... | 42 |
| (10) 計画の推進と進捗管理手法..... | 43 |
| 5. 関連資料 | 44 |
| (1) えびの市観光審議会条例..... | 44 |
| (2) えびの市観光審議会 名簿..... | 46 |

1. 計画策定の趣旨

(1) 計画の目的

えびの市では、新えびの市観光振興計画(平成 24 年度～平成 28 年度)に基づき、各種の施策を計画的に実施しているが、平成 28 年度末で終了を迎える。平成 27 年に本市の人口が 2 万人を割りこみ、人口減少が深刻な局面を迎えており、今後、本市が持続的な発展をするためには、自然や歴史文化など「えびの市らしい」地域資源を活かしたまちづくりを推進する必要がある。

そのためには、交流人口の増加による地域経済の活性化が最も重要な事項のひとつであり、観光の現状やニーズを明らかにした上で将来ビジョンと方向性を明確化した観光振興計画を定め、交流人口の増加を図るとともに、将来的な定住人口の増加を目指すべく、新たに平成 29 年度から 5 カ年間の計画を策定するものである。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、本市における観光振興の中心となる計画である。また、平成 28 年 3 月に策定された「えびの市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「人が集い選ばれるふるさとづくり」を推進するための具体的施策を示したものである。

以下に、本計画に関連する事項について整理する。

えびの市まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標 2 「人が集い 選ばれる ふるさとづくり」

【基本的方向】

えびの市の魅力を積極的に発信し、交流人口の増加や移住促進を図る

施策方針 2 - 1 地域資源を再認識の上、様々な方法による情報発信を行う

施策① シティセールスの推進

- 魅力再発見・再認識事業
- 情報発信強化事業
- 情報通信網整備事業（公共施設等Wi-Fi化）
- シティセールス推進事業
- ふるさと納税推進事業

施策方針 2 - 2 観光振興や農家民泊・スポーツ合宿等を通じた交流人口増加を図る

施策② 観光の振興

- 観光資源磨き上げ・整備事業
- 観光情報発信事業
- 観光農園整備事業
- 観光ルート整備事業
- インバウンド対策事業
- 文化財等活用事業
- 市民参加型まちづくり支援事業

施策③ 体験型観光の充実、スポーツ合宿・イベント等誘致

- 農家民泊支援事業
- スポーツ合宿推進事業
- 体育施設整備事業
- 会議・イベント誘致事業

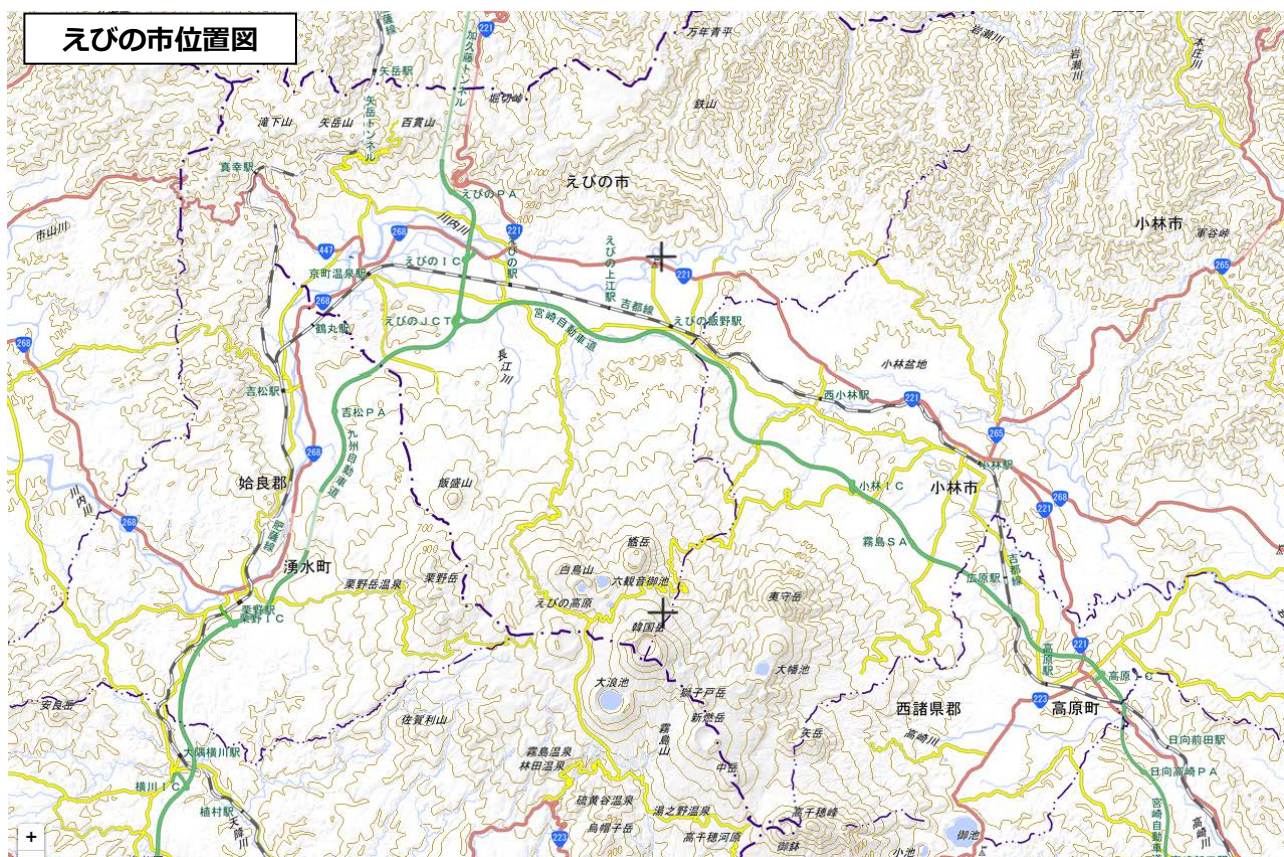
(3) 計画期間

本計画は、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 力年間を計画期間とする。

ただし、観光状況の変化やえびの市の基本的な方向性の変更があった場合などは、必要に応じて計画の見直しを行う。

(4) 計画対象範囲

本計画の対象範囲は、えびの市全域とする。下に位置図を示す。



計画対象範囲（地理院地図より）

2. えびの市の概況

(1) 位置

えびの市は宮崎県の南西部に位置し、宮崎・熊本・鹿児島県の3県の境界に位置する。

(2) 地勢

えびの市の中心部はカルデラ性盆地の加久藤盆地である。市の南部は霧島連山と火山性高原であるえびの高原で形成され、北部には矢岳高原がある。最高峰は韓国岳(1700.3m)、市役所は標高 230.0m に位置する。

(3) 人口

えびの市の人口は 19,538 人(平成 27 年国勢調査確定値)である。これは平成 22 年国勢調査時に比べ 2,068 人の減少である。

(4) 産業

えびの市の基幹産業は農畜産業である。米作は霧島連山の湧水を集めた川内川の水で育つヒノヒカリ(平成 27 年産が特 A 取得)が有名で、「日本の米作り 100 選」にも選出された。ブランド牛「宮崎牛」の産地でもある。



えびの高原

(5) 交通

えびの市は九州自動車道と宮崎自動車道の分岐点であり、えびの JCT・えびの IC が位置している。

最寄りの空港は鹿児島空港である。宮崎⇄鹿児島間の高速乗合バス「はまゆう号」(宮崎交通・南国交通)が一日 7 便運航しており、えびの IC と鹿児島空港を 31 分で結んでいる。

鉄道は九州旅客鉄道(JR 九州)が通り、市内には吉都線京町温泉駅、えびの駅、えびの上江駅、えびの飯野駅および肥薩線真幸駅が位置する。



えびの市役所

(6) 祭事・イベント

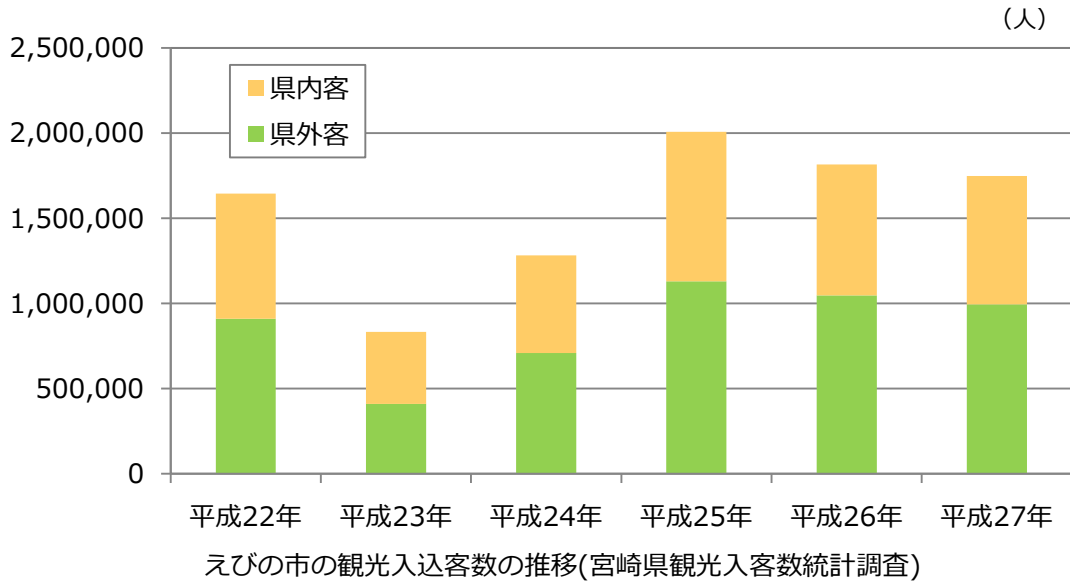
| 時期 | 名称 | 内容 |
|----|---------------|--|
| 1月 | 餅勧進 | 厄年の男女の厄払い行事で、1月14日の夜に行われる伝統奇祭である。厄年の男女を中心とした5～6人のグループが、奇抜な化粧で変装して、20軒以上の民家を急襲、音楽にのせて踊り無病息災・家内安全を祈願する。 |
| 2月 | 京町二日市 | 南九州最大の買物市。京町温泉駅前の中心部約2kmが歩行者天国となり、地元商店はもとより市外・県外からの出店業者も多く、約400店舗が軒を並べる。取り扱われる商品は各種食料品から衣料品・雑貨・電気機器・植木など多種にわたり、陶器市も行われ、毎年10万人ほどの観光客が訪れる。 |
| 3月 | 打植祭 | 毎年三月の初卯の日に行われる五穀豊穡を願う祭礼。香取神社の祭神である女神様が天宮神社の天宮様を出迎えに行き、香取神社で年に一度の再開を果すと伝えられ、木牛による農耕の打植神事などが行われる。 |
| | 八幡丘公園夜桜ライトアップ | 小高い丘の上の公園は市内随一の桜の名所。1000本を数えるソメイヨシノやオオシマザクラが開花する3月下旬から4月上旬、日没と同時に園内のぼんぼりに灯された明かりが、満開の桜を艶やかに照らし出される。 |
| 4月 | 韓国岳山開き | 登山シーズンを前に神事を行い登山者の安全を祈願する。温泉卵や飲料水等のふるまいに加え、記念手形のプレゼントがある。 |
| 5月 | 馬頭観音祭 | 家畜の無病息災と家内安全を祈願し市内各所の観音堂で行われる伝統行事。古くから牛馬の飼育が盛んだった本市では馬頭観音はその守り神とされ、えびの高原の六観音御池にある馬頭観音が起源であると伝えられている。 |
| | えびの京町温泉マラソン大会 | グリーンパークえびの・芝生広場を会場とするマラソン大会。平成29年大会で30回を迎える。 |
| 7月 | 牛越祭 | 菅原神社で家畜の無病息災と豊作を願う伝統行事。地面から50センチの高さに設置された丸太を、農繁期を終えた牛が跳び越える。祭りの歴史は400年以上と古く、今では毎年約20頭の牛が参加している。 |
| | 京町温泉夏祭り | えびの市内園児によるこども神輿やお遊戯が披露されるほか、ライブ・花火大会なども行われる。会場では、色々な夜店が並び大勢の人出で賑わい、約4000発の花火が夜空を彩る。 |
| 8月 | 大太鼓踊 | 400年以上もの伝統を誇る由緒ある行事。毎年8月の最終日曜に、南方神社に奉納される。大太鼓踊りは通称ウバッチョ（大ばち）踊りと言い、地元では「おすわさあまつり」として親しまれている。五穀豊穡を祈願して、400年以上、一度も休むことなく踊られている。 |
| 9月 | 金松法然祭 | 200年以上も昔、栗下村にぶらりとやってきて住み着きその法力で村人たちの苦難を救った法然和尚の命日に行われる供養祭。伝統の輪太鼓踊りや兵児踊りが奉納される。 |

| | | |
|-----|-----------------------|--|
| 10月 | 秋季えびの 観光祭 | 600万本ものコスモスが咲き誇る秋のグリーンパークえびので開催される。えびの市の特産品販売や、ボルダリング体験や河川でのカヌー体験試乗ができる。 |
| 11月 | 田の神さあ の里 産業文 化祭 | 収穫の秋を彩るえびのの代表的なイベント。旬の農産物や市民が手がけた文化作品など、様々な逸品が出展される。また「田の神さあおどり大会」も同時開催。趣向を凝らした踊り手たちが会場を練り歩き、祭りを盛り上げる。 |

(7) 入域観光客数

えびの市の観光入込客数は、平成 22 年の口蹄疫、平成 23 年の新燃岳噴火活動の活発化の影響で、大きく落ち込み、その後、回復したが、平成 25 年以降は、前年比より少なくなっている。

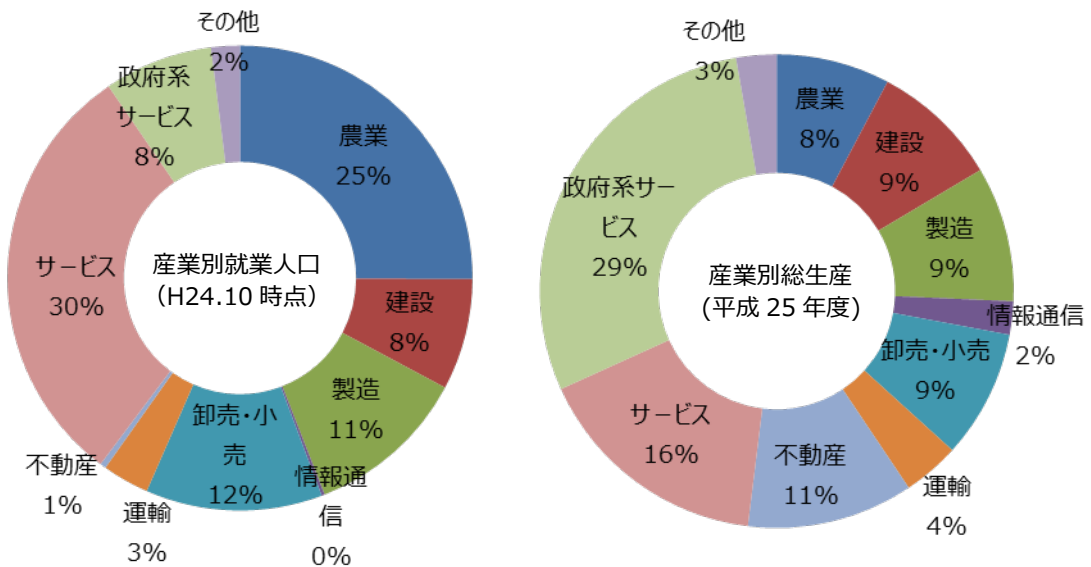
えびの市に隣接し、温泉を有する霧島市は、平成 26 年に 660 万人の入込があり、えびの高原を訪れる観光客が、霧島市をはじめ周辺に分散して宿泊している可能性があるかと推察される。

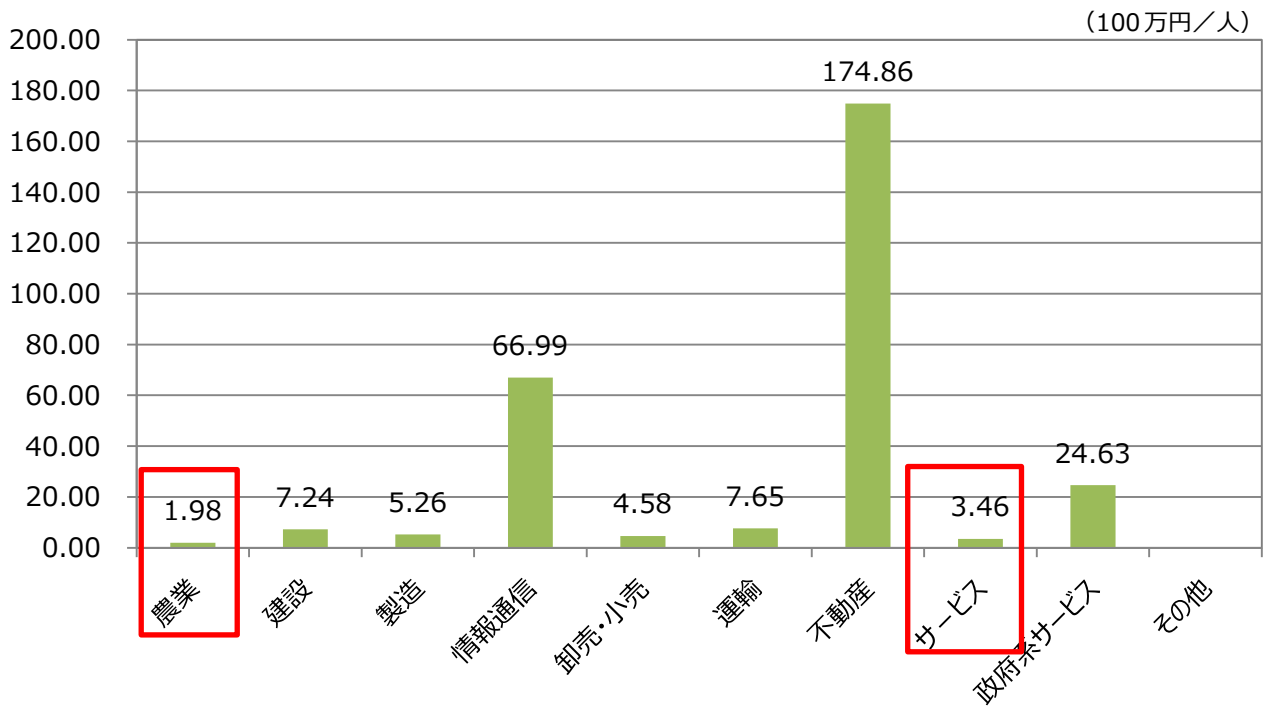


(8) 産業構造

えびの市の産業別就業人口と市内の総生産を比較する。これによると、就業人口の多くを占めるものは、観光を中心とするサービス業と農業であることがわかる。一方、産業別総生産では、政府系サービスが最も大きく、サービス業と農業のシェアは大きく下がる。

これより、えびの市の就業人口はサービス業と農業が中心であるものの、サービス業と農業の付加価値は、市内で最も低い2業種であることがわかる。





産業別の1人当たりの生産額 (産業別総生産÷産業別就業人口)

(9) 観光資源

| 名称 | 説明 | 写真 |
|------------------|---|----|
| 韓国岳(からくにだけ) | 標高 1700m を誇る霧島連山の最高峰。えびの高原東南にそびえ、直径 900m、深さ 300m の火口湖を持つ。さまざまな高山植物をはじめ野鳥や昆虫たちなど多くの生き物が生息。晴れた日は山頂から遠く韓国まで見渡せると言われていることからこの名前が付く。 | |
| 六観音御池(ろっかんのんみいけ) | 霧島の火口湖の中で最も美しく、酸性湖のため湖面はコバルトブルーになっている。直径 400m、周囲 1500m、水深 14m。ミズナラ・カエデなどの広葉樹やモミ・アカマツなどの針葉樹が混生する豊かな森が池を包む。季節ごとに変化する美しい山と池とのコラボレーションはまさに絶景。 | |
| 甑岳(こしきだけ) | えびの高原北部に位置する標高 1301m の山。頂を水平に切り落としたような形が「甑/蒸し器」に似ていることが名前の由来になっている。火口湖や湿原を抱く山頂にはモウセンゴケなどの湿地植物が自生。裾野に広がる針葉樹林は国指定天然記念物。 | |

| | | |
|------------------------|---|---|
| <p>不動池(ふどういけ)</p> | <p>えびの高原を走る県道 1 号線沿いにあり、池めぐりコース内の火口湖の中でも最も小さな池。直径 210m、水深 9m。池の水は火山の影響から酸性度が高く、光の乱反射により神秘的なコバルトブルーをしている。</p> |  |
| <p>白紫池(びやくしいけ)</p> | <p>以前は天然のアイススケート場として利用されていた火口湖で直径 250m、水深 1m ほど。水底までくっきり見える浅い池で水際ギリギリまで近付くことができる。冬場は霧氷の美しいところで凍てつく寒さの中で見る絶景に感動する。</p> |  |
| <p>えびのエコミュージアムセンター</p> | <p>えびの高原の豊かな自然や見どころなどを写真や映像、ジオラマなどで紹介する自然博物館。韓国岳登山口に近い場所にある。ゆるやかな時間が流れる館内では池めぐりやハイキングなど高原を楽しむためのさまざまな情報なども提供している。また、ドライブの途中に気軽に立ち寄れる休憩スポットでもある。</p> |  |
| <p>すすきヶ原</p> | <p>韓国岳の裾野に広がる平原で「えびの」の名の由来でもあるように、秋には穂先をエビ色に染めたススキが辺り一面を埋め尽くす。深まる季節とともに、綿毛のような銀色に変化した風にそよぐ様はえびの高原を象徴する風景のひとつ。</p> |  |
| <p>つつじヶ丘</p> | <p>足湯の駅えびの高原から歩いてすぐの場所にある。霧島錦江湾国立公園内でも屈指と言われるミヤマキリシマの群生地。6ha の地に約 3 万株が自生する。薄桃色、薄紫色、淡紅色などの花の色や大きさなど品種によって微妙に変わる。見頃は 5 月下旬～6 月中旬ごろ。</p> |  |
| <p>六観音堂(ろっかんのどう)</p> | <p>六観音御池ほとりの展望台そばにある。以前は六観音の像を祭る仏堂であった。のちに牛馬の守り神である馬頭観音を祭るようになったと言われる。明治になり「豊受神社」と改称し、今でも地元住民に厚く信仰されており毎年 5 月に祭礼が行われる。</p> |  |
| <p>足湯の駅えびの高原</p> | <p>県道 30 号線からえびの高原に入ってすぐの左手にある。川湯をイメージしたつくりで湯口から湧き出る天然温泉が滔々と流れる。10～15 分ほど足を浸すと足裏が刺激されぽかぽかと温まり疲れをほぐす。多くの登山客や観光客が利用する人気の休憩スポット。</p> |  |

| | | |
|-----------------------------|--|---|
| <p>えびの高原 アイススケート場</p> | <p>標高 1200m の高地にある九州最南端の屋外アイススケート場。冬晴れに雪化粧した雄大な韓国岳を背景に滑走する開放感は、ここのスケート場でしか体感できない。</p> |  |
| <p>白鳥森林公園(しらとりしんりんこうえん)</p> | <p>えびの市街地から県道 30 号線で、えびの高原に向かう途中の白鳥山北西にある。白鳥神社、白鳥温泉下湯・上湯があり遊歩道を歩きながら神社を参拝し汗をかいた後は温泉に入ってさっぱりして帰る観光客が多い。 上湯は、西郷隆盛も湯治に訪れたと言う歴史ある温泉で、えびの市を一望できる展望露天風呂はじめ全国的にも珍しい蒸し風呂がある。下湯には、庭園風露天風呂があるほか、ケビンやアスレチック施設がある。</p> |  |
| <p>白鳥神社(しらとりじんじゃ)</p> | <p>ヤマトタケルノミコトを祭神とし平安後期の天徳 3 年(959)に建立され、室町初期に現在の地に社殿を移設。文化 6 年(1809)に火災で焼失した後に再建されたものが現在の本殿。島津藩主の信仰も厚く現在は開運厄除けとして知られる。本殿に残る江戸末期作の彫刻は宮崎・鹿児島のみで見られる特徴的なもの。</p> |  |
| <p>えびの高原 キャンプ村</p> | <p>霧島錦江湾国立公園内の標高 1200m の高地にある。アカマツに覆われたキャンプ場は夏場でも平均気温が 24 度と心地よく、避暑地としても人気がある。登山や池めぐり、高原散策の拠点としてもおすすめ。学校や職場のグループ、家族連れなど県内外から多くのキャンパーたちが訪れる。</p> |  |
| <p>真幸駅(まさきえき)</p> | <p>JR 肥薩線にある宮崎県唯一の駅。急峻な山線と呼ばれる区間にあり、列車を前進・後退させて進行するスイッチバックの駅としても有名。「真の幸せ」という縁起の良い駅名にちなみホームには「幸せの鐘」を設置。</p> |  |
| <p>島内古墳(しまうちこふん)</p> | <p>古墳時代後期(5~6 世紀)の古墳の一種で、鉄製の鎧・冑・剣・刀・矢じりなどが大量に出土している著名な古墳群。1933 年に県指定。2012 年 9 月出土品 1029 品が国の重要文化財に指定。</p> |  |

| | | |
|--------------------------------|--|---|
| <p>日本三大車窓</p> | <p>JR 肥薩線の最高地である矢岳駅から次の真幸駅までの区間、矢岳第一トンネルを抜けると左手に山と田園が広がる雄大な景色が現れる。眼下にはえびの盆地、彼方には尾根を連ねる霧島の山々が見える。晴天の日は名峰桜島が、さらに運が良ければ白くたなびく雲海を見ることができる。</p> |  |
| <p>菅原神社 (すがわらじんじゃ)</p> | <p>県道 268 号線から川内川を渡った西川北地区にあり、寛文 5 年(1665)に建立された。家畜の無病息災と豊作を願う「牛越祭」は 400 年の歴史をもつ伝統行事。高さ 50cm、長さ 4m の太い丸太の棒を牛たちが勢いよく飛越える。祭りは 7 月 28 日で県指定無形民俗文化財となっている。</p> |  |
| <p>王子原運動公園 (おうじばるうんどうこうえん)</p> | <p>緑に囲まれた丘の上のスポーツ公園。ナイター設備やフル LED スコアボード、5 人立のブルペンを完備した野球場はさまざまなスポーツイベントの会場となる。その他ソフトボールやグラウンドゴルフのできる多目的広場もある。</p> |  |
| <p>県立公園矢岳高原</p> | <p>真幸地区の北に位置する県立公園。えびの市内や霧島の山々を一望でき、秋には気象条件が整えば目の前に広がる真っ白な雲海を見ることができる。公園内にはえびの市の姉妹都市であるアメリカテキサス州ベルトン市にちなんだ矢岳高原ベルトンオートキャンプ場が設置され、テーマは西部開拓時代。東京ドーム 1 個分という約 8ha の敷地内にオートキャンプ場、セントラルハウスがある。</p> |  |
| <p>田の神さあ</p> | <p>田の神は、冬は山の神となり、春は里におりて田の神となって田を守り、豊作をもたらすと信じられてきた神様。田の神を石に刻み(田の神石像)豊作を祈願する風習は 18 世紀初頭に始まった薩摩藩独自の文化であり、市内に 140 体ほど点在している。</p> |  |
| <p>金松法然 (かなまつほうぜん)</p> | <p>無類の焼酎好きと云われた法然僧侶を祀った墓地。今から約 230 年前、どこからともなくやって来て栗下村に住み着き村人たちの苦難を救った通称、焼酎法然。「焼酎を供えて一つだけ願をかけなさい」と言い残しこの世を去った。例祭は 9 月 23 日。</p> |  |
| <p>三徳院 (さんとくいん)</p> | <p>木崎原合戦での島津軍勝利を夢占いで予言した盲僧菊一に島津義弘が天正 3 年(1575 年)に与えた寺院。敵陣に間者(スパイ)として潜入し敵の動きを察知、島津軍に多大な貢献をしたと云われ、昭和 60 年にえびの市の指定文化財に指定されている。</p> |  |

| | | |
|--------------------------------|--|---|
| <p>永山運動公園(ながやまうんどうこうえん)</p> | <p>九州自動車道えびのインターチェンジのすぐ近くの川内川沿いにある。サッカー場、ゲートボール場、グラウンドゴルフ場として使用できる多目的広場やテニスコートなどが整備された運動公園。</p> |  |
| <p>南方神社(みなみかたじんじや)</p> | <p>島津義弘が創建した神社で旧称「諏訪神社」。毎年8月の最終日曜日に行われる例祭では直径120cmの大太鼓をかついで勇壮に踊るウバッチョ(大太鼓)踊りを奉納。400年以上の伝統があり地元ではおすわさあまつりの名で親しまれている。</p> |  |
| <p>加久藤城跡(かくとうじょうし)</p> | <p>国道268号線と221号線が交差する川原の交差点そばの丘の上にある。真幸院領主であった北原氏が応永年間に築城。永禄7年(1564)飯野城主となった島津義弘の入城により改築。加久藤城と改名され天正18年まで義弘夫人の居城となった。</p> |  |
| <p>JR えびの駅</p> | <p>JR 吉都線の駅で現在は無人駅。地元出身の黒木和雄氏が監督を務めた「美しい夏キリシマ」のロケにも使われ、終戦前後の姿を再現した撮影時の状態で保存されている。木造のどこか懐かしい佇まいが郷愁を誘う。(国登録有形文化財)</p> |  |
| <p>グリーンパークえびの</p> | <p>コカ・コーラウエスト株式会社のえびの工場で、えびのインターチェンジのすぐそばにある。製造工場や展示ギャラリーをはじめ試飲コーナーやオリジナルグッズ販売のショップなどもある。フラワーガーデン、散策エリア、芝生広場を併設しており季節毎に多彩なイベントを開催している。</p> |  |
| <p>浜川原湧水公園(はまかわばるゆうすいこうえん)</p> | <p>霧島山系の麓に位置し、年間を通じて霧島山系の地下水が湧き出ている。ため池とグラウンドには夜間照明施設があり、夏場は、裂罅水を利用したそうめん流しやグラウンドゴルフも楽しめる。また、5月には、蛍の群生も見られる。</p> |  |
| <p>えびの市歴史民俗資料館</p> | <p>「えびの市文化の杜」にあり市内で出土した古墳時代の出土品から古文書、民俗資料などえびのの歴史資料を展示・収蔵。館内には多目的展示ホール、研究室、AVコーナーも完備。島内古墳から出土した国指定重要文化財や戦国時代の島津義弘関係などが展示されている。自然や歴史をテーマにした各種イベントも開催している。</p> |  |

| | | |
|------------------------------------|--|---|
| <p>クルソン峡 (くるそんきょう)</p> | <p>川内川上流にある延長約 10km の峡谷で巨大なクルソン岩がそそりたつ。クルソンとはお釈迦様になる前の仏陀の名で、かつて山伏達が修行を積んだ霊地と伝えられる。夏場は水遊びやキャンプ、避暑に訪れる観光客も多く、秋は紅葉が色鮮やかに渓谷を彩る。</p> |  |
| <p>狗留孫大橋 (くるそんおおはし)</p> | <p>五日市からクルソン峡へと続く県道から望める。全長 325m、橋高 70.5m のスマートな橋は橋桁の内部が空洞になった箱桁構造。蛇行する川内川の流れを大きくまたぐ長い橋を渡ると広い空や緑の山々が目の前に広がる。</p> |  |
| <p>毘沙門の滝 (びしゃもんたき)</p> | <p>国道 221 号線からクルソン峡に向かう途中にある。滝の名は延宝年代にこの地にあった毘沙門寺に由来。柱状節理の切り立った岩盤から流れる滝を木々の緑が包み込む。滝壺の深い水色は季節毎に変化し微妙な表情を見せる。奇岩巨岩が横たわる滝の上には遊歩道が整備されており滝の下とはまた違う趣がある。</p> |  |
| <p>めがね橋</p> | <p>昭和 3 年に架けられた石造りの 3 連アーチ橋で正式名称は「月の木川橋」。全長 58.2m、橋高 17.2m、木材でやぐらを組んだ基礎に 50cm 角の石を積み重ね、アーチの中央には五角の石を組み込んでいる。木材搬出用であったが現在は人だけしか通行できなくなっている。国登録有形文化財。</p> |  |
| <p>享保水路太鼓橋 (きょうほうすいろたいこばし)</p> | <p>めがね橋の上流 300m にある県内最古の石造りのアーチ橋。正式名称は「享保水路太鼓橋」といい、享保の時代に飯野平野の水田に水を引くために造られた。全長 58m、幅員 8.8m、橋の中央には 1m 幅の細い水路が走っている。台形を 2 段に重ねた石橋の構造は国の登録有形文化財に指定されている。</p> |  |
| <p>八幡丘公園 (はちまんがおかこうえん)</p> | <p>JR えびの飯野駅北東にある標高 400m の八幡丘山頂とその周辺。花の名所として知られ春は 650 本の桜が咲き誇り、山頂までの並木道を花のトンネルが美しく飾る。展望台からは霧島連山の一部やえびのの町を一望。公園内には馬頭観音を祭った「相馬神社」があり 5 月には祭礼が行われる。</p> |  |
| <p>木崎原古戦場跡 (きさきばるこせんじょうあと)</p> | <p>元亀 3 年(1572)南九州の覇権をかけて伊東義祐と島津義弘が戦いを交えた場所。南九州の関ヶ原とも云われた激戦で、伊東氏 3,000 の兵に対し島津氏がわずか 300 の兵で勝利を収めた。両軍の戦死者は 800 人にもものぼり、この戦いを機に伊東氏は衰退の一途を辿る。</p> |  |

| | | |
|-------------------------------------|--|---|
| <p>大河平のつつじ(おこびらのつつじ)</p> | <p>大河平小学校の正門側にある。道路沿いを100mに渡り見上げるほどの樹高のキリシマツツジの生垣を濃い朱色の花が覆い尽くす。室町時代から江戸時代にかけてこの地を治めた大河平氏の屋敷跡で、この独特の花色は戦国時代、合戦に敗れた氏族達が流した血の色とも云われ「血潮ツツジ」とも呼ばれている。見ごろは4月下旬～5月上旬。</p> |  |
| <p>出水観音(でみずかんのん)</p> | <p>出水地区にある観音堂で、建立は今から1000年ほど前。子宝にご利益のある観音さまとして知られ、小石を一個いだけ子供が生まれたり二個返すという風習が残っている。お堂の前には霧島山系の地下水がこんこんと湧き出る美しい池があり隠れた名所となっている。</p> |  |
| <p>飯野の大イチョウ</p> | <p>島津義弘が病で亡くなった長男鶴寿丸の供養に植えた供養樹で、市役所飯野出張所の敷地内にある。江戸時代には地頭仮屋(役所)が置かれていたが明治には小学校として改称。その後、西南の役で戦火に遭いイチョウも幹の一部が焼けてしまうが今なお健在。秋には巨木に茂るその葉が眩しい黄金色に染まる。県指定文化財。</p> |  |
| <p>亀城公園【飯野城跡】(きじょうこうえん いいのじょうし)</p> | <p>川内川や飯野一帯を望む小高い丘の上にある。永暦元年(1160)に当時の領主であった日下部重貞が築城。断崖と谷に囲まれかつては強固な山城であったという。永禄7年から26年間、島津義弘の居城となるが元和元年の一国一城令により廃城。その後本丸・物見曲輪を整備し現在の公園となる。</p> |  |
| <p>陣の池(じんのいけ)</p> | <p>田代地区の山際にある2つの湧水池。池の名は戦国武将が池のそばに陣を構えたことに由来。水路沿いの道を上流に行くと右手奥に大池、左手のさらに奥に小池がある。水底まで見える青く澄んだ水を湛え、池を囲む木立の緑と相まって神秘的な美しさを漂わせる。</p> |  |
| <p>京町温泉</p> | <p>その昔、雷温泉とも呼ばれていた。大正期に黒松旅館(当時)の経営者が梅雨時に温泉を掘削中、少量の湯が湧出。孟宗竹に国旗を掲げて喜んだところ、先端に雷が落ちて竹が飛び散り、翌日から高温の湯が出るようになったとされている。昭和レトロな街並みと個性的な温泉旅館が点在しており、京町銀天街にはスナックが20軒以上ある。</p> |  |
| <p>道の駅えびの</p> | <p>地元で穫れた新鮮な野菜やフルーツ、ブランド牛として広く知られている宮崎牛などの販売はもちろん、霧島連山を眺めながら、えびのの新鮮で美味しい農産物を手軽に満喫できるバイキングレストランなどがある。</p> |  |

3. えびの市の観光の現状と課題

(1) 観光実態把握調査

本計画の検討にあたり、下表の調査を実施した。

調査内容一覧

| 調査の種類 | 調査内容 |
|------------------------------|---|
| ① トップインタビュー | 調査対象：えびの市長 実施方法：ヒアリング調査 実施時期：平成 28 年 11 月 2 日（水） |
| ② 担当課ヒアリング | 調査対象：えびの市観光商工課、畜産農政課 実施方法：ヒアリング調査 実施時期：平成 28 年 11 月 2 日（水） |
| ③ 来訪者アンケート調査 （観光地での対面調査） | 調査対象：えびの市を訪れた観光客 実施方法：対面調査 市内 3 か所で実施（道の駅えびの、グリーンパークえびの、えびのエコミュージアムセンター） 実施時期：平成 28 年 11 月 4 日（金）～7 日（月） 回収数：道の駅えびの 208 サンプル グリーンパークえびの 45 サンプル えびのエコミュージアムセンター 204 サンプル |
| ④ 来訪者アンケート調査 （宿泊客アンケート） | 調査対象：えびの市内の宿泊施設を利用した観光客 実施方法：宿泊施設のフロントで配布、チェックアウト時に回収 実施時期：平成 28 年 11 月 4 日（金）～30 日（水） 回収数：149 サンプル |
| ⑤ 市民アンケート調査 | 調査対象：えびの市民（無作為抽出の 2,000 人） 実施方法：郵送アンケート調査 実施時期：平成 28 年 11 月 11 日（金）～25 日（金） 回収数：369 サンプル（回収率 18%） |
| ⑥ 誘致圏マーケット調査 （インターネット調査） | 調査対象：過去にえびの市を訪れたことのある方 実施方法：インターネットアンケート調査 実施時期：平成 28 年 11 月 11 日（金）～18 日（金） 回収数：900 サンプル（首都圏、関西圏、九州圏、各 300 ずつ） |
| ⑦ 誘致圏マーケット調査 （グループインタビュー） | 調査対象：過去にえびの市を訪れたことのある方 実施方法：グループインタビュー 実施時期：平成 28 年 12 月 5 日（月）東京会場 6 名 平成 28 年 12 月 10 日（土）大阪会場 6 名 |

(2) 現状と問題点（調査結果より）

各種調査結果を踏まえ、えびの市の観光の現状と課題を整理した。

1. 滞在時間が短く、観光消費の少ない観光地

- ・えびの市を訪れる観光客は、県内が 36.5%、九州圏内が 82.1%（県内含む）であり、九州地方以外から来訪する観光客は全体の 17.9%に過ぎない。それに関連し、自家用車、レンタカーで訪れる観光客は、87.1%と大半である。
- ・えびの市を訪れる観光客の平均滞在時間は4時間未満である。また、来訪者の約60%は市内で消費をしておらず、消費した方でも1日当たりの消費額は約4,500円/人（宿泊を含めると9,500円/人）、全体の平均では、約770円/人（宿泊を含めると1,050円/人）と極めて少ない。

2. 認知度に対し、訪問、宿泊が極めて少ない観光地

- ・えびの市に対する認知者のうち、訪問経験がある割合は37.8%、宿泊経験がある割合は3.8%と、訪問割合に比較して宿泊割合が極めて少ない。したがって、上記と同様に、いかに市内を周遊し、宿泊してもらうかを最重要の課題として考える必要がある。

3. 市民が自信を持ってお勧めできる観光資源が乏しい

- ・えびの市内には、えびの高原、京町温泉郷、道の駅えびの、真幸駅やえびの駅、田園風景とヒノヒカリ、田の神さあなど、魅力的な資源があるものの、どれも、九州圏内の有名観光地と勝負できるだけの一級品の観光資源とは言えない。「観光資源を観光商品にすること」、「行きたい、買いたいと思わせること」に注力し、洗練した観光商品を生み出すことが必要である。
- ・えびの市民へのアンケートでは、市民が観光客にお勧めしたいスポットとして、「道の駅えびの」が50.9%、「白鳥温泉」が39.6%、「韓国岳」が37.1%となっており、ほとんどの観光スポットは、お勧め度が20%を下回っている。
- ・これは、えびの市民が地元の観光資源に自信を持っていないことの表れであり、観光資源の磨き上げとともに、市民意識の向上も不可欠と考えられる。

4. 「えびの高原」と「えびの市街地」が物理的・情報的に隔絶している

- ・えびの市の2大観光スポットと言って良い、えびの高原と道の駅えびのは、双方を結ぶ公共交通がないとともに、道の駅えびのでえびの高原の情報が得られない、えびの高原で道の駅や京町温泉の情報が得られないなど、市内にありながら物理的・情報的に隔絶している。これが、市内周遊をしづらくしている要因でもある。

5. 誘客・周遊を図るためのプロモーションの不足

- ・周遊観光を促進するため、市内の観光資源をつなぐためのストーリーが不足している。また、プロモーションする際のコンセプト、「えびの市と言えばこれ」というイメージがない。
- ・えびの市は、鹿児島空港から車で約30分というアクセス環境にありながら、空港内での情報発信、レンタカー会社での情報発信が乏しく、えびの市の認知度を上げる十分なPRができていない。
- ・自家用車、レンタカーによる来訪が大半であるにも関わらず、ドライブ用のマップや案内サインが乏しい。
- ・PRするターゲットの絞り込み、年間を通じたプロモーション計画がなく、戦略的な誘客活動が行われていない。

(3) 新えびの市観光振興計画(平成 24 年度～平成 28 年度)の進捗と評価

新えびの市観光振興計画(平成 24 年度～平成 28 年度)の取組の状況、今後の方向性を把握するため、重点プロジェクト別に、市長及び、市担当課にヒアリングを行った。

ヒアリング結果の取りまとめ

| 重点プロジェクト | 取組の進捗・効果・課題 |
|----------------------|---|
| 「(通称)えびの観光研究会」プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> ・えびの観光研究会は、審議会の流れを汲んで始まったが、具体的な計画や目標がなかったため、徐々に参加者が減り継続できなくなってしまった。研究だけではなく最終的な実践に取り組める組織が必要と思われる。 ・観光振興計画の内容に具体性を持たせ、年度ごとの具体的な計画とし、研究会で推進していく体制が良い。 |
| 「昭和の温泉郷 えびの京町」プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> ・京町温泉は、まず場所が認知されていない。通常の温泉郷とは違うイメージがある。地元の利用が多く、対外的に料金を上げていく方向に向いていない。 ・旅館組合の組合員は、皆、個人事業主であるためか、取組に京町温泉としての一体感がない。温泉旅館が並んでいるわけではないため、景観としても一体感がない。 ・繁忙期にスポーツ合宿を受け入れているが客単価は低いのが悩みである。 ・今後、京町温泉駅の駅舎をなくしホームだけになる。そこで、京町温泉駅に隣接して交流センターが出来る予定であり、ここを核として京町温泉全体の活性化につなげていけると良い。 ・足湯を作ったものの、管理がうまくできていないなど、官民の連携に課題がある。 |
| 「安全で健康な“えびの料理”プロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消を進めているが、牛肉は宮崎産があまり使われていないという課題がある。学校給食では、市内のお米を使う場合に、材料費補助を行っている。 ・旅館の仕入は、仲卸業者が入っているところが多いため、地元食材率は低いと思われる。旅館によっては自分のところで採れた米や野菜を提供しているところもある。 ・道の駅と提携して食材を出荷するシステムができてくると良い。 ・過去に鹿肉料理を試作したが、安定供給できないため浸透しなかった。 ・原産地呼称管理制度などは、議論は出るものの、どこまでをえびのの認証とするか生産者との合意を取るのが難しい。道の駅では生産履歴を出すことにしているが、減農薬・有機栽培などの基準を設けて認定品を決めることは難しい。シールの貼り分けの手間、管理の問題がありハードルは高い。 ・農家民泊は、えびの市と小林市・高原町で連携して取組んでいる。農業体験として民泊農家に生徒を預けるスタンスである。修学旅行の受け入れが中心で民家は約 60 軒ある。1 軒には 3 人から 5 人が泊まる。大阪、兵庫からが多い。春から夏にかけて一番多い。受け入れ農家によって、知識の差が大きい。 |

| | |
|------------------------------|--|
| <p>「カルデラの上から下まで満喫」プロジェクト</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・計画にあったエコミュージアムセンターの改修は実施済み。展望スポットは整備されていないが、白鳥温泉周辺に作る計画はできている。 ・ジオパークでは他自治体との連携も進んできている。景色だけではなくアクティビティも増えている。登山客も増えている。 ・道の駅を拡充し、敷地内にアウトドア体験メニューを紹介する拠点を作ろうとしている。民間事業者との連携や、周辺地域のアクティビティとの連携も視野に入れていきたい。この拠点から、えびの高原に誘導したい。 ・サービスエリアなどでの広域的観光情報の発信は、新規はかなり厳しく結局置けない状況だ。 ・スケート場があるため、夏よりも冬に訪れる方が多い。元は白紫池の天然氷の上で滑っていた。ほぼ日帰りだ。外でできるスケート場の日本最南端である。 ・えびの高原からのえびの市内への路線バスはなく、小林市か霧島市に降りることになる。ターゲットが絞り込まれれば対策が検討できる。 ・移動時間よりも高速料金が障壁になっていると感じる。 |
| <p>「物産館から発信」プロジェクト</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の事務所を道の駅に移し、人員を増強した。 ・観光案内所の場所がわかりづらい。農水省の補助で整備したため、グリーンツーリズムの情報発信場所としての位置づけである。 ・2年前までは観光協会の法人化を検討していたが断念した。観光協会では、平成27年度まで、白鳥温泉の指定管理をしていたため、法人化等の必要性には迫られていないと思われる。 ・観光協会は市の補助金が8~9割であり、自主財源が乏しい。 ・インバウンドについては、実態把握すらできていない。 ・道の駅の案内板は、情報量に制限がある。紅葉情報などリアルタイムなものが出せれば良い。 ・道の駅に集めて、そこから展開するイベントを心がけている。イベント時には駐車場が足りなくなる。 |
| <p>「人や自然で“ときめき”プロジェクト</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・民泊ではない修学旅行は市でも助成を出している。かつては旅館で受け入れていたが、今ではもうほぼない。キャンプが年に数回ある程度である。 ・農家民泊では、日帰りの農業体験も受け付けている。 ・農家民泊は観光協会に入っていない。えびの市では畜産農政課が担当している。 ・味噌作り、そば打ちなどの体験型観光施設もあると良い。 |
| <p>「観光地再生」プロジェクト</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・八幡丘公園は桜や松の手入れを定期的に行っている。 ・吉田温泉は旅館が1軒で立場的に難しい。 ・コンパクトシティとして生活する上で便利なまちづくりが必要だ。 ・都市計画課部局との話し合いはなかったが、観光担当課単独でできることはほとんどなく、連携が必要である。 |

(4) 観光振興で特に活かすべき資源

観光客の訪問意欲を喚起し、質の高い滞在を経験して頂き、その結果として再訪意向や推奨意向を向上させるためには、えびの市の観光が宮崎県内や国内の競合観光地と比較した際に質の高いものであることが不可欠であるだけでなく、えびのらしさと言える優位性を規定できる「特徴・強み」を明確に打ち出していくことが不可欠である。

えびのらしさを構成する要素

| えびのらしさを構成する要素 | 特徴・強み |
|-----------------------------|--|
| えびの高原をはじめとする国立公園エリア | 韓国岳、えびの岳、白鳥山、甕岳に囲まれた標高約 1200m に位置する盆地状の高原。えびのエコミュージアムセンターをはじめ、足湯の駅えびの高原、不動池、六観音御池、白紫池、国民宿舎えびの高原荘、キャンプ村、白鳥温泉、白鳥神社など、自然を満喫しながら、さまざま滞在の仕方ができる。えびの市の観光の核となる資源。 |
| 京町温泉郷・吉田温泉郷などの温泉街 | えびの市街の核となる温泉街。昭和レトロな街並みと個性的な温泉旅館が点在している。スナックも 20 軒以上あり、飲み歩きも可能である。 |
| 田園風景 (ヒノヒカリ、田の神さあ) | えびの市の主要産業である農業の中で中心的な稲作。 えびの市で収穫されるヒノヒカリは、平成 27 年に宮崎県産で初めて米の食味ランキング「特 A」を獲得した。学校給食でヒノヒカリが使用されるなど市民にも親しまれている。 市内の至る所に田園風景が広がっており、田の神さあと呼ばれる田の神像が市内に約 150 体存在している。 |
| 懐かしい風情を残す木造駅舎 (えびの駅、真幸駅) | えびの駅は、JR 吉都線の木造駅舎。昔ながらの風情を残す無人駅。真幸駅は、宮崎県で最初にできた駅であり、肥薩線唯一の宮崎県内の駅である。「真の幸せに入る」に通じるとして、入場券などで人気がある。 |

(5) 観光推進のための目標

前述のような現状と問題点を踏まえ、えびの市への観光客数並びに観光消費額を増加させ、観光を契機とした地域経済を活性化させるためには、環境変化に対し追従する『受け身の観光』から、目指すべき地域の姿に向けて戦略を実行する『攻めの観光』への転換を図ることが急務であり、次の対策が不可欠である。

えびの市観光推進のための目標

| えびの市の観光推進のために達成すべきこと | その対策 |
|----------------------------|---|
| ①観光消費額の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・トレッキング、池巡りなどのえびの高原のアクティビティの高付加価値化、付加価値の高い特産品開発、食の魅力化などを通じて、消費額を向上させ、地域経済の活性化に結び付けること。 ・観光消費で最も大きいシェアを占める宿泊施設について、既存の温泉旅館の魅力向上、夜の温泉街の魅力向上など、えびのの温泉宿が宿泊先として選ばれる工夫の実施。 |
| ②地域内滞在時間の延長 | <ul style="list-style-type: none"> ・滞在中の観光客に対して、来訪目的別の行動形態や情報・体験等に関するニーズを的確に捉え、適切な場所・タイミングで地域の魅力伝達を行い、「せっかくだからあの場所にも立ち寄ってみたい」という気持ちを喚起し、地域内での回遊を促進する。 ・また、滞在時間の長い、自然系アクティビティ、まちあるき体験や、宿泊を伴う夜間や朝のアクティビティ等の充実を図る。 |
| ③新規顧客開拓 | <ul style="list-style-type: none"> ・まだ訪れたことのない消費者や観光客のニーズを的確に捉え、魅力ある情報を適切なタイミングで伝達することで来訪を促進する。 ・さらに、宮崎県内に住む方の週末のレジャー先としてのニーズを捉え、来訪・再訪を促進する。 |
| ④観光客の満足度向上における再訪意向・推奨意向の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・観光客の事前の期待に応え、期待以上の新鮮な驚きを与えることができる観光資源の磨き上げや受入体制の整備を推進し、滞在の満足度を向上させることで、再訪意向並びに推奨意向を向上させる。 ・特にドライブ観光の来訪者に対しては、短時間でも強く地域の魅力を印象付け、次回の来訪に繋げる。 |
| ⑤観光地として相応しい観光基盤整備の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ドライブを想定した案内看板、マップなどを充実させ、観光客が求める情報を的確に提供できる環境を整える。 ・市内の周遊ルートの整備の他、二次交通やレンタサイクル事業など、市内を周遊できる仕組みを構築する。 |

(6) 考えるべき重点ターゲット

観光客の志向や旅行形態の多様化を踏まえ、えびの市観光振興計画を策定する上で、えびの市観光の主要市場やターゲットの現状及び今後の成長性を想定することが必要である。市場やターゲットは、居住地（海外を含む）だけでなく、観光客の来訪目的や年齢層、旅行形態、交通手段等を踏まえ、えびの市を中心とする宮崎・鹿児島観光のスタイルや楽しみ方を整理しつつ検討を行う。計画を推進する上で、観光客の具体的な姿をイメージし個別施策に取り組むことが重要である。

①ターゲット市場の居住地・誘致圏

えびの市への市外からの来訪者は、宮崎県内が40%、九州圏域では80%以上を占めており、近隣から自家用車で訪れる方が主要ターゲットとなるが、鹿児島空港を利用した首都圏、関西圏からの観光客も10%程度占めており、今後の重要なターゲットとなる。

中長期的にみると、海外における海外旅行市場が急速に伸張していることから、多様な国籍の来訪者がえびの市を訪問する可能性が想定される。

【重点ターゲット】九州圏内の来訪者（グループ・ファミリー、自家用車・レンタカー利用）

【重点ターゲット】首都圏・関西圏からの来訪者（山好き、グループ、レンタカー利用）

【重点ターゲット】九州圏内の団体客（農家民泊・教育旅行）

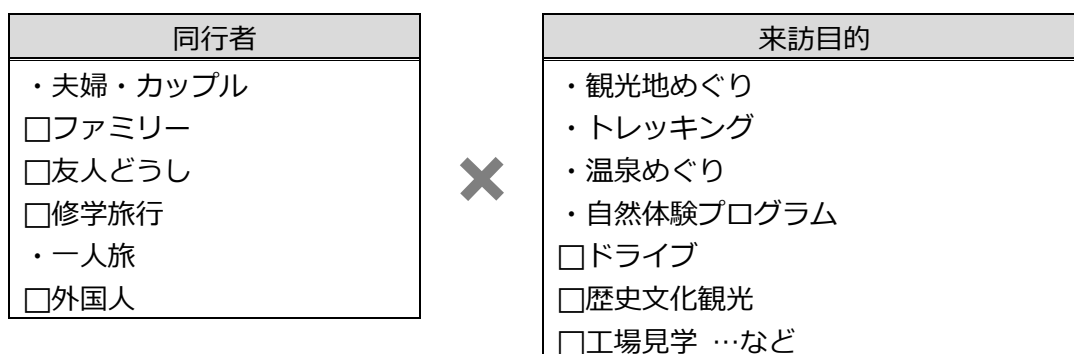
【短期～中長期ターゲット】首都圏・関西圏からの来訪者（温泉好き、グループ、レンタカー利用）

【短期～中長期ターゲット】スポーツ合宿客（団体客、バス利用）

【長期ターゲット】外国人観光客（バス・レンタカー利用）

②同行者・来訪目的

観光旅行の目的や具体的行動は、旅行の同行者により大きく左右される。旅行者の属性を性別、年齢別だけでなく様々なタイプで想定し、観光の目的や嗜好性に即したえびの市観光の楽しみ方を幅広く提供する必要がある。



えびの市で想定すべき同行者・来訪目的

(7) えびの市の観光の課題整理

① 市内周遊、滞在時間延長のための対策が必要

- ・ えびの市を訪れる観光客は、レンタカーによるドライブ観光が主で、滞在時間、消費額ともに極めて少ない。観光消費額は、滞在時間に比例するため、滞在時間を延長、さらには宿泊などを促す仕組みが必要である。
- ・ そのため、ストーリーに沿った周遊ルートの開発、えびの高原のガイドプランの充実、温泉巡り、周辺地域と連携した広域の自然体験プログラムの魅力強化、農業体験プログラムの充実など、より滞在型の観光を促すための商品、仕組みが必要である。
- ・ また、市内の二次交通を充実させ、観光客ニーズを踏まえた周遊の仕組みを構築することも重要である。

② 観光消費額拡大のための資源の商品化が必要

- ・ 観光消費を促すためには、消費する対象が必要であり、えびの市の自然環境を活かしたトレッキングツアー、自然体験プログラムや、農業資源、獣害対策の鹿革、えびの焼などを活用した特産品開発などが有効である。
- ・ えびの市民が感じる魅力度の中で、商店街・商店等、宿泊施設、飲食店の満足度が低いことから、市民が自信を持ってお勧めできる商店街・商店等、宿泊施設、飲食店を増やしていくことが重要である。
- ・ えびの市には、自然景観、歴史・文化、農村の暮らしなど、多彩な資源があるものの、観光資源として洗練されていないため十分活かされていない。地域固有の資源の価値を、まず地域が再認識し、観光資源として観光客にアピールすることを通じて、地域への誇り醸成に繋げていくことも重要である。

③ 誘客を図るための効果的なプロモーション強化が必要

- ・ 鹿児島空港やレンタカー会社など、観光客がえびの市の情報に触れる重要なタッチポイントでありながら、情報が発信できておらず、機会損失となっている。そのため、鹿児島空港、レンタカー、機内誌などで積極的に情報を発信していくことが重要である。
- ・ また、新たなイベントの創出などを通して、えびの市を訪れる機会創出を積極的に推進することも重要である。特に、京町温泉などの夜間イベントなどで、周辺地域の方の来訪を促したり、観光客の宿泊を促すことも重要である。

④ えびの市としての個性の強化

- ・ えびの市には、豊富な観光資源があるものの、九州圏内の有名観光地と勝負できるだけの一級品の観光資源ではないため、二番手、三番手の観光地になりがちである。えびの高原や京町温泉をはじめ、真幸駅、クルソン峡など、良いイメージを喚起する資源が豊富にあるため、SNS やポスターなどで、ビジュアルイメージを作り、えびの市のイメージ戦略を行うことが必要である。
- ・ また、イメージとともに、実際の魅力向上も不可欠であり、観光客目線で資源の磨き上げを行い、「えびのと言えばこれ」という資源を1つでも作り上げることが重要である。

4. えびの市観光振興計画

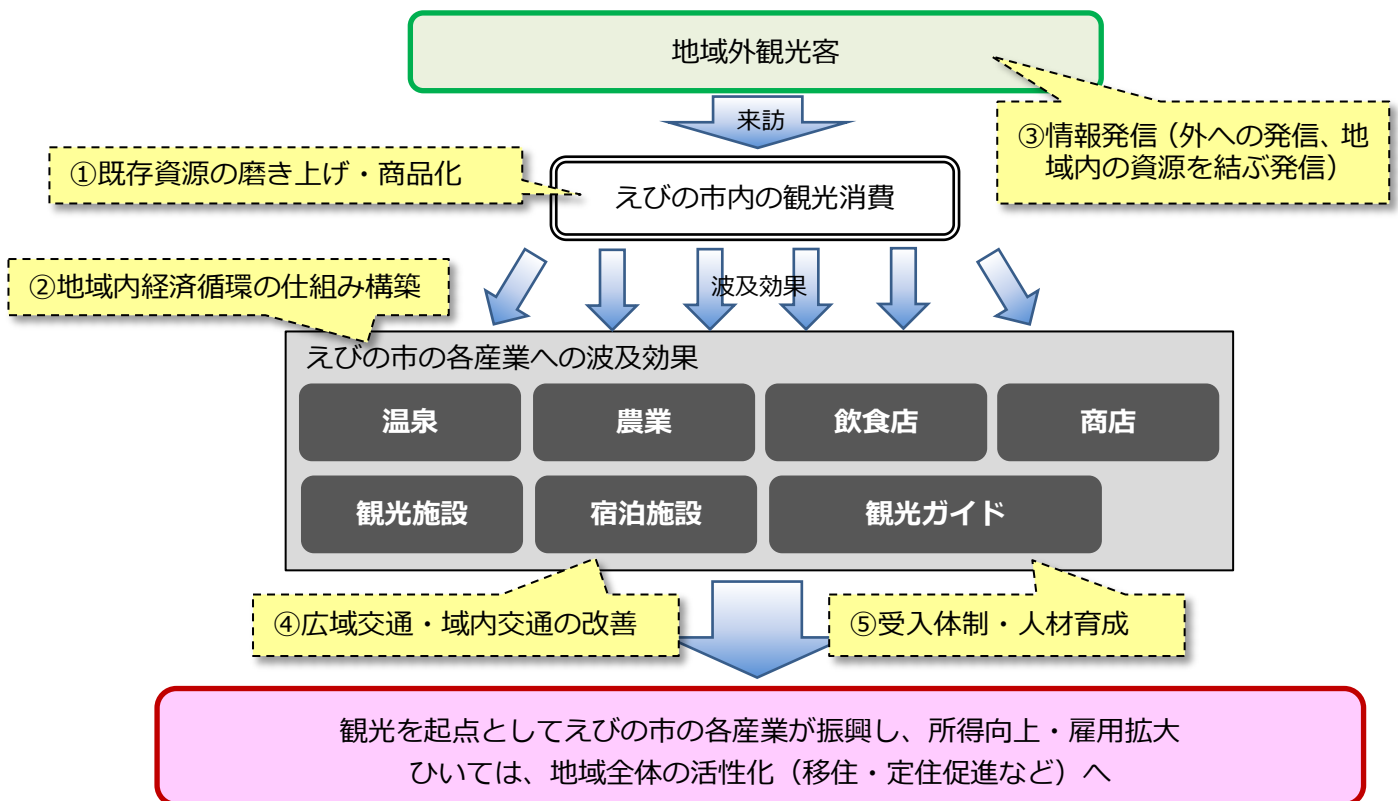
(1) えびの市の観光が目指すべき方向性

観光は、地域外から資金を獲得できる重要な産業である。また、既存の地域産業に波及させることで、地域産業全体が潤う可能性を有している。

観光において重要な観点は、「地域内外へのプロモーションによる誘客の強化」「地域資源を活用した観光消費の拡大」、「観光消費を地域内に循環させ、地域全体に効果を波及させること」、「この取組を推進しうる自立的な体制の構築」「これら取組を支える基盤づくり」である。

しかし、現状では、消費者ニーズを踏まえた商品や情報発信が不十分である、地域内経済循環が弱い、関係者が一体となって取組む体制ができていないなど、えびの市の観光を推進する取組・体制が不十分である。

そこで、えびの市観光振興計画は、「既存資源の磨き上げ・商品化」「地域内経済循環の仕組み構築」「情報発信（外への発信、地域内の資源を結ぶ発信）」「広域交通・域内交通の改善」「受入体制・人材育成」の5つを柱として構成する。



観光地のお金の流れと、えびの市の観光の目指すべきポイント

(2) えびの市観光振興計画の基本施策

えびの市には、韓国岳の裾野に広がる日本初の国立公園であるえびの高原をはじめ、京町温泉郷、道の駅えびの、グリーンパークえびの、クルソン峡、のどかな田園風景と田の神さあなど、多彩な魅力を有しており、様々な観光客を魅了する魅力がある。

こうした魅力を活かしつつ、自然との触れ合い、温泉や食の楽しみ、住民との交流、歴史・文化の学びなどを繋ぎ合わせた、えびの市をまるごと満喫できる観光地とすることを目指し、キャッチコピーに基づく、下記のような基本施策を掲げる。

キャッチコピー

霧島山の めぐみ めぐるえびの ～山と水、米と肉。温泉と四季のまち～

基本施策

● 既存資源の磨き上げ・商品化

現在のえびの市の観光は、ドライブによる通過型の観光であり、滞在時間が短く、消費額が非常に少ない。これを打開し、滞在時間を延ばし・消費を拡大させるため、観光客のニーズを捉えて、地域資源を磨き上げ、コンテンツ化した体験を適正な価格で市場に提供することで、地域の魅力自体を底上げすること、また、これらの資源の結びつきやストーリー化を通じて、「えびのらしさ」を発信し、観光客の満足度を向上させることが重要である。

● 地域内経済循環の仕組み構築

えびの市における観光消費が、市内の様々な産業に波及し、地域経済全体が活性化することが望ましい姿である。農業、商業、伝統工芸などの各産業が連携した取組や宿泊施設等での地域産品の積極的利用など、地域内で経済が循環するための事業者の工夫が必要である。

● 情報発信（外への発信、地域内の資源を結ぶ発信）

えびの市への来訪可能性が高いターゲットに、情報を的確に届けて来訪意欲を喚起する。滞在中の観光客のニーズに合わせて、地域の価値ある情報発信を強化し、滞在時間の延長を図る。また、鹿児島空港やレンタカー会社での情報発信を強化するとともに、ドライブ観光に適したマップ等を作成・発信する。さらに、観光施設・観光資源の情報を集約、一元化して発信する仕組みを構築する。

● 広域周遊観光の仕組み構築

えびの市観光のポイントは、二次交通による周遊観光の促進であり、道の駅・高速バス発着場などを核として、レンタサイクル、観光タクシーなどの多様な周遊観光を提供することが重要である。

● 受入体制の構築・人材育成

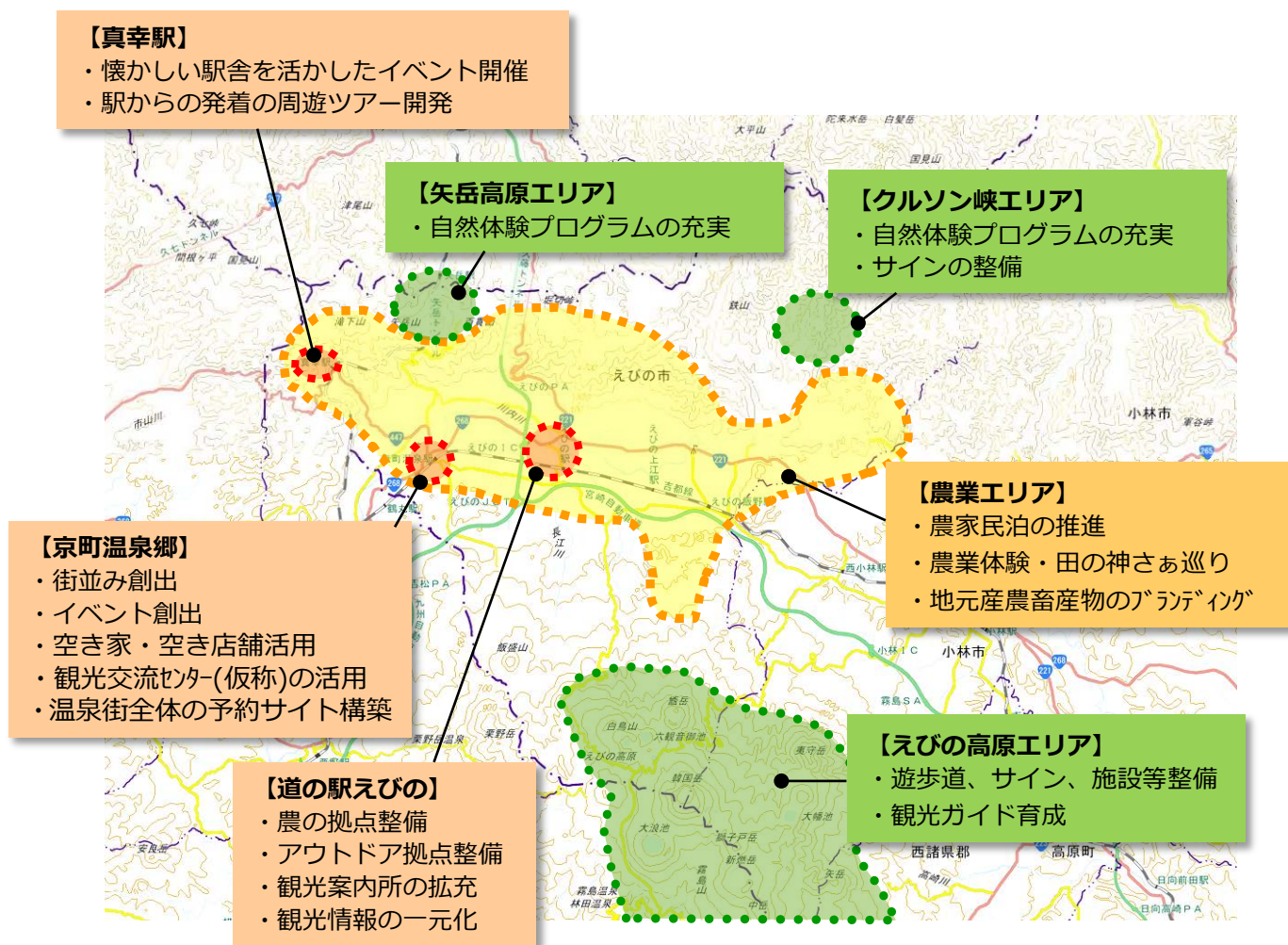
えびの市の観光が持続的に発展していくために、観光客の期待に適切に応えるホスピタリティを有し、かつ期待や想像を超えた発見や楽しみを提供することができる観光人材を育成することが重要である。なお、将来的には、国内からの観光客だけでなく、国際化にも対応した体制が必要であり、観光関連事業者だけでなく、市民も含めたおもてなしの意識を醸成することによって実現される必要がある。

(3) えびの市観光振興計画の施策体系

| コンセプト | 基本施策 | 施策の展開 | 施策の具体的な取組内容 |
|---|-----------------------------------|---|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">霧島山のめぐみ めぐるえびのく山と水、米と肉。温泉と四季のまち</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第5次えびの市総合計画、えびの市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> | <p>1. 既存資源の磨き上げ・商品化</p> | <p>1-1 えびの観光の拠点施設整備</p> <p>1-2 民間企業と連携した魅力向上</p> <p>1-3 えびの高原・白鳥温泉の魅力化</p> <p>1-4 京町温泉の魅力向上</p> <p>1-5 えびの市内の回遊性向上</p> | <p>アウトドア拠点の整備、農の拠点の整備、観光案内所の拡充</p> <p>産業観光の推進、京町温泉×ココ・コーラの推進、道の駅えびの×アウトドアメーカー</p> <p>遊歩道、サイン、施設等の整備、観光ガイドの充実</p> <p>温泉街としての街並みの創出、京町温泉を楽しむイベントの創出、空き家・空き店舗活用、観光交流センター(仮称)の活用、廃業支援・事業継承支援の実施、温泉街全体の予約手配サイトの構築</p> <p>ストーリー性のある周遊ルートづくり、温泉・農村ガイドの育成</p> |
| | <p>2. 地域内経済循環の仕組み構築</p> | <p>2-1 他産業と連携した観光産業の魅力化</p> <p>2-2 教育旅行と連携した農家民泊の推進</p> <p>2-3 スポーツ合宿の受入れ体制整備</p> | <p>地場産農産品のブランディング、地元産業等との連携</p> <p>農家民泊の推進</p> <p>スポーツ合宿参加者への助成制度</p> |
| | <p>3. 情報発信（外への発信、地域内の資源を結ぶ発信）</p> | <p>3-1 効果的なプロモーション体制の構築</p> <p>3-2 ドライブマップの作成・配布</p> <p>3-3 県内外への効果的な情報発信</p> <p>3-4 鹿児島空港での積極的な情報発信</p> <p>3-5 一元的な情報発信窓口の整備</p> | <p>情報発信媒体の多様化・SNSとの連携、旅行会社等への営業強化</p> <p>自家用車・バイク利用者に特化したマップ・案内サインの整備</p> <p>国内ターゲット層のニーズを踏まえた情報発信、滞在中の観光客への情報発信、海外市場に対する誘客戦略・プロモーション、口コミ・SNS 情報の展開、住民と観光客によるシティセールスの展開</p> <p>鹿児島空港内における宮崎県の情報発信強化</p> <p>観光情報の一元化</p> |
| | <p>4. 広域周遊観光の仕組み構築</p> | <p>4-1 えびの高原・京町温泉・道の駅を結ぶ公共交通の整備</p> | <p>市内を周遊する二次交通ネットワークの整備、えびのの景色を満喫するバイク事業の実施、JR 吉都線・肥薩線を活用した誘客力の向上</p> |
| | <p>5. 受入体制の構築・人材育成</p> | <p>5-1 観光受入れ人材の育成</p> <p>5-2 地域住民の観光活動への理解醸成</p> <p>5-3 インバウンドの受入体制整備</p> <p>5-4 P D C A を回すための観光統計の整備</p> | <p>内発的に地域の魅力を発信する人材育成・体制づくり、観光ガイドの育成とネットワーク化、学校における観光人材育成の強化</p> <p>地域住民の観光への理解醸成、地域ぐるみでのおもてなし手法の展開</p> <p>観光施設等の受入環境の評価、言語に依存しないおもてなし</p> <p>観光入込統計の充実並びに観光客・市民意識調査の定期的実施、えびの観光地域づくりプラットフォーム(仮称)の設立</p> |

(4) 観光ゾーニング図

えびの市の観光の拠点、エリアを下記の図に示す。



えびの市の観光ゾーニング図

(5) 施策の具体的な取組内容

施策1 既存資源の磨き上げ・商品化

現在のえびの市の観光は、ドライブによる通過型の観光であり、滞在時間が短く、消費額が非常に少ない。これを打開し、滞在時間を延ばし・消費を拡大させるため、観光客のニーズを捉えて、地域資源を磨き上げ、コンテンツ化した体験を適正な価格で市場に提供することで、地域の魅力自体を底上げすること、また、これらの資源の結びつきやストーリー化を通じて、「えびのらしさ」を発信し、観光客の満足度を向上させることが重要である。

1-1 えびの観光の拠点施設整備（アウトドア拠点、道の駅えびのの魅力向上）

1) アウトドア拠点の整備

取組の内容

- ・えびのの市街地とえびの高原を結ぶ拠点と位置付ける
- ・偶然立寄った観光客をえびの高原に立寄らせるよう、えびの高原の魅力を発信
- ・えびの市街地で、えびの高原に関する情報（紅葉情報、積雪情報、火山・安全情報など）を広く発信し、市街地にいながらえびの高原の状況を知る拠点とする
- ・周辺市町村との連携した広域アウトドア観光の拠点とするため、周辺市町村のアクティビティの情報も発信

2) 農の拠点の整備

取組の内容

- ・道の駅のレストランで、地元農作物を豊富に使用したバイキングメニューの開発
- ・道の駅の農作物直売コーナーを充実、POPなどで生産者の顔の可視化
- ・えびの名物となる新メニューの開発

3) 観光案内所の拡充

取組の内容

- ・観光案内所を拡充し、観光客のニーズ、滞在日数等に応じて、オリジナルの旅行プランを提案する観光コンシェルジュ機能を設置
- ・鹿児島空港からの高速バスと道の駅の接続を良好にし、道の駅から二次交通などでえびの市内を周遊する仕組みの構築

1-2 民間企業と連携した魅力向上

1) 産業観光の推進

取組の内容

- ・グリーンパークえびの、焼酎メーカー等、市内産業と連携した観光プログラム開発
- ・観光客が、自分で商品作りを体験したり、作った品物を持ち帰れるプログラムを開発

2) 京町温泉×コカ・コーラの推進

取組の内容

- ・市内の旅館・ホテルへ、瓶のコカ・コーラの販売を促進
- ・「えびのは、浴衣でコカ・コーラ」というビジュアルイメージの拡大

3) 道の駅えびの×アウトドアメーカー

| 取組の内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・アウトドアメーカーと連携し、春～秋のトレッキング、冬のスケートなど、通年を通してえびのの自然を楽しめる仕組みを構築・アウトドア用品のショップも併設し、アウトドアの裾野を拡大する役割も担う |

1-3 えびの高原・白鳥温泉の魅力化（国立公園満喫プロジェクト）

1) 遊歩道、サイン、施設等の整備

| 取組の内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・安全で快適に山歩きができるよう、遊歩道整備、案内サインの整備などを強化する・また、外国人観光客にも対応するようピクトグラムや多言語対応したサインを整備・老朽化が進む、キャンプ場のケビンなどの施設の整備・改修も行い、快適な滞在を可能にする |

2) 観光ガイドの充実

| 取組の内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・えびの高原の魅力をもっと楽しめるよう、有償のプロガイドを養成・英語を中心とした多言語による通訳ガイドの育成・自然体験ガイド、通訳ガイド等の情報を一元化し、観光客のニーズに合わせて迅速に手配することが可能となるよう仕組みを構築する |

1-4 京町温泉の魅力向上

1) 温泉街としての街並みの創出

| 取組の内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・一般的な温泉街としての景観を有さない京町温泉は、街並み整備には費用がかかるため、夜景の演出で景観的統一を図るのが望ましく、提灯、サインなどを共通のものとし、夜の温泉街の一体的な雰囲気演出・街並みが観光資源であることを地域住民に理解してもらうためのワークショップや観光客との交流イベントの開催・年間を通じて花や緑のあるまち歩き環境を目指し、行政、市民、民間事業者が協働で魅力ある景観づくり活動の実施 |

2) 京町温泉を楽しむイベントの創出

| 取組の内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・京町温泉の宿泊客を増加させるため、夜に訪れたい京町温泉となるよう定期的なイベントを実施（ナイトマーケット、京町温泉映画祭など）・京町温泉郷全体を楽しめる湯めぐりの仕組み（温泉手形など）構築・イベントを定期的に企画・実施するための体制強化 |

3) 空き家・空き店舗活用

| 取組の内容 |
|--|
| ・京町温泉の空き家・空き店舗の積極的活用を促進（空き家の情報発信、仲介の支援、最初の数年は賃料免除、改修費用の一部負担など） |

4) 観光交流センター（仮称）の活用

| 取組の内容 |
|------------------------------------|
| ・京町温泉の活性化の取組の核として観光交流センター（仮称）を位置づけ |
| ・子ども図書館、ミニ映画館など、積極的に利用を促すコンテンツの充実 |

5) 廃業支援・事業継承支援の実施

| 取組の内容 |
|---|
| ・布団の上げ下ろし、料理の配膳など忙しい部分をワークシェアすることによる温泉旅館単独の負担軽減、泊食分離による廃業防止などの仕組み構築 |
| ・廃業旅館を経営統合して規模を拡大し団体を受け入れるなど、効率的経営の仕組み構築 |

6) 温泉街全体の予約手配サイトの構築

| 取組の内容 |
|---|
| ・京町温泉に関心をもった観光客を逃がさないため、京町温泉の宿の共通予約サイトを構築し、空いている宿に予約を誘導 |

1-5 えびの市内の回遊性向上（レンタカー、ストーリー性のある周遊ルートづくり）

1) ストーリー性のある周遊ルートづくり

| 取組の内容 |
|--|
| ・歴史、史跡、文化、産業、自然などの様々なテーマ・ストーリーに応じた各集落の連携による周遊ルートの設定 |
| ・レンタカーのモデル周遊ルート、タクシー周遊プラン、サイクリングモデルルート、まちあるきルート、観光バスモデルプラン等の開発 |
| ・観光客の目線で必要な情報を提供する、まちあるき用看板を集落内に設置 |
| ・集落内に情報発信の拠点となる施設を整備（既存の商店などを活用） |
| ・まちあるきやサイクリングの観光客のための休憩スペース、飲食スペースなどの整備 |

2) 温泉ガイド、農村ガイドの育成

| 取組の内容 |
|-----------------------------------|
| ・温泉ソムリエを活かした温泉湯めぐり周遊ルートの設定 |
| ・京町温泉等の主要温泉でない、マイナーな温泉地巡りルートの設定 |
| ・田の神さあの由来や地域の成り立ちを語るディープな農村ツアーの設定 |
| ・住民の個性を活かすガイド養成ワークショップ等の開催 |

施策2 地域内経済循環の仕組み構築

2-1 他産業と連携した観光産業の魅力化

1) 地元産農畜産品のブランディング

取組の内容

- ・集落、田の神さあ、農村ガイド、農作物と連携した体験型プログラムを開発
- ・観光関連事業者と、飲食店や農協とのネットワーク体制の構築
- ・農家しか知らない情報（料理、暮らしの知恵など）を知る農家民泊の展開

2) 地元産業等とデザイナーとの連携

取組の内容

- ・デザイナーと連携した新たな商品開発、パッケージデザイン
- ・デザイナーのネットワーク等を活かした都市部への販路開拓
- ・ECサイト（オンラインショップ）の構築と通信販売の強化

2-2 教育旅行と連携した農家民泊の推進

1) 農家民泊の推進

取組の内容

- ・許認可取得（農林漁家民泊や簡易宿泊所等）のためのサポートの強化
- ・農業体験・民泊の質の維持・向上のための講習会の開催
- ・近年の教育旅行、民泊動向等に関する旅行会社等のセミナーの開催
- ・受入規模拡大に向けた地域内プロモーションの強化・講習会の実施
- ・受入体制（緊急時の連絡体制、医療体制、保険の加入等）の整備

2-3 スポーツ合宿の受入れ体制整備

1) スポーツ合宿参加者への助成制度

取組の内容

- ・スポーツ合宿参加者への宿泊費・施設利用費の助成の整備
- ・継続利用の学校・サークルは、継続回数に応じた助成制度の整備
- ・口コミによる情報発信を狙いとしたモニターツアーの実施

施策3 情報発信（外への発信、地域内の資源を結ぶ発信）

3-1 効果的なプロモーション体制の構築

1) 情報発信媒体の多様化・マスコミとの連携

取組の内容

- ・時期におけるメディアキャンペーンを実施する。航空会社と連携し、鹿児島空港発着の航空機の中でプロモーションを実施（機内誌への掲載、パンフレット配布等）
- ・マスメディアや旅行会社に対し、旬の情報や良質な宣伝画像等を定期的に提供
- ・レンタカー会社でのパンフレット設置など、えびの市の情報発信強化

2) 旅行会社等への営業強化

取組の内容

- ・旅行会社の商品開発時期や、キャンペーン実施時期にあわせ、旅行会社の企画担当者、販売担当者等を誘致したり、パンフレット制作支援を行うなどの企画販売支援
- ・首都圏の旅行会社への営業活動の強化
- ・県のプロモーション、商談会等への積極参加

3-2 ドライブマップの作成・配布

1) 自家用車・レンタカー利用者に特化したマップ・案内サインの整備

取組の内容

- ・ドライブ観光に特化したマップ作成（観光施設はもちろん、道の駅、駐車場、トイレ等の情報を充実）
- ・自動車利用の所要時間を考慮した周遊ルート作成

3-3 県内外への効果的な情報発信

1) 国内ターゲット層のニーズを踏まえた情報発信

取組の内容

- ・国内のターゲット層ごとの、プロモーション戦略の検討（季節、年代、グループ毎）
- ・時間帯、過ごし方に応じたコンテンツやイベント等の内容、魅力、楽しみ方に関する情報をタイムリーに集約・発信できるネットワーク体制の整備

2) 地域内滞在中の観光客への適切な情報発信

取組の内容

- ・観光ポータルサイト（スマートフォン対応）やパンフレットを通じて、交通情報や観光情報を観光客が観光中・移動中に収集できる仕組みを構築
- ・観光客の来訪が多い観光施設等における観光マップやパンフレットの設置
- ・外国人など、はじめての観光客にもわかりやすい標識や案内看板のデザイン統一
- ・Wi-Fi整備の促進、及びそれを活用した情報発信の充実
- ・ARアプリ「えびなび」を活用した情報発信

3) 海外市場に対する誘客戦略・プロモーション

取組の内容

- ・観光ポータルサイト、観光マップ、パンフレット等の多言語化
- ・海外重点市場の旅行会社等に対して旅行説明会や商談会の実施
- ・海外重点市場の旅行会社、メディア等に対するモニターツアーの実施

4) 口コミ・SNS 情報の展開～住民と観光客によるシティセールスの展開

取組の内容

- ・既存の観光地や飲食店等の口コミサイトへの登録、並びに市民の評価や口コミの書き込みを促進

3-4 鹿児島空港での積極的な情報発信

1) 鹿児島空港内における宮崎県の情報発信強化

取組の内容

- ・鹿児島空港内のマップによる情報発信、パンフレットの設置、レンタカー会社でのパンフレット設置など、えびの市の情報発信強化

3-5 一元的な情報発信窓口の整備（道の駅でのえびの高原の情報発信）

1) 観光情報の一元化

取組の内容

- ・観光施設・観光資源の情報を集約、一元化して発信する仕組みの構築
- ・宿泊予約、体験予約等を一括でできるポータルサイトを構築
- ・明確にターゲット層を絞り込んだプロモーションの実施
- ・キーパーソン（発信力のある著名人、旅行会社等）を対象としたモニターツアーやPRの実施
- ・ポータルサイトや画像・動画コンテンツ等の観光情報ツールの整備
- ・インパクトのあるキャッチコピーの設定
- ・効果的に誘客が図れるイベントを開催

施策 4 広域周遊観光の仕組み構築

4-1 えびの高原・京町温泉・道の駅を結ぶ公共交通の整備

1) 市内を周遊する二次交通ネットワークの整備

取組の内容

- ・道の駅や主要観光施設を結ぶ二次交通の整備
- ・レンタサイクル、イベントバス、ベロタクシーなど、交通機関の利用自体が観光コンテンツとなり得る二次交通の開発、活用を促進
- ・道の駅や真幸駅などから、別の交通に乗り換えてえびの市内の観光ツアーに参加する仕組み構築（高速バス&レンタカー、自家用車&ベロタクシーなど）

2) えびのの景色を満喫するレンタカー事業の実施

取組の内容

- ・将来的に道の駅を拠点にレンタカー事業を展開
- ・トゥクトゥクやレトロカーなど、乗ること自体が観光になる車両を利用

3) JR 吉都線、肥薩線を活用した誘客力の向上

取組の内容

- ・観光列車の誘致
- ・真幸駅を拠点としたイベントの開催
- ・観光交流センター（仮称）との連携によるイベントの開催
- ・国登録有形文化財である「えびの駅」の保存と、それを活用した観光ルートの設定

施策5 受入体制の構築・人材育成

5-1 観光受入れ人材の育成

1) 内発的に地域の魅力を発信する人材育成・体制づくり

取組の内容

- ・接客経験のある人材を拡充し、マニュアル通りでない接客・ホスピタリティスキル、並びにえびの市の観光スポットや資源の魅力を口コミで伝達する力の向上を目的とした人材育成

2) 観光ガイドの育成とネットワーク化

取組の内容

- ・歴史文化に精通したまちあるきガイドや、えびの高原のプロフェッショナル、温泉ソムリエ、農村ガイドなどの自然体験ガイドの育成
- ・まちあるきガイド、自然体験ガイド、通訳ガイド等の情報を一元化し、観光客のニーズに合わせて迅速に手配することが可能となるよう組織化

3) 学校における観光人材育成の強化

取組の内容

- ・地域の観光の成り立ちや波及効果を判りやすく図示し、ビジュアル化した冊子を作成し小中高等学校や一般に公表
- ・小学校・中学校・高校での「えびの高原」や「京町温泉」の特別授業の実施
- ・小学校・中学校・高校での職場訪問及び就労体験等を通じて、子供たちが観光産業に触れる機会の創出
- ・市内の高校で、観光人材育成に特化したカリキュラムの検討

5-2 地域住民の観光活動への理解醸成

1) 地域住民の観光活動への理解醸成

取組の内容

- ・地域住民に観光の効果・意義を理解してもらうためワークショップや説明会を開催

2) 地域ぐるみでのおもてなしの展開

取組の内容

- ・温泉旅館等のホスピタリティスキル向上のための研修等の実施
- ・市民の観光産業への理解度及びおもてなし力を向上させることを目的としたセミナー等を開催

5-3 インバウンドの受入体制整備

1) 観光施設等の受入環境の評価の実施

取組の内容

- ・外国人観光客受入の実態調査の実施（チェックシートによる現状把握）
- ・専門家による実地研修や個別指導の実施
- ・国籍に応じた価値観の違いを学ぶセミナーの開催

2) 言語に依存しないおもてなし手法

| 取組の内容 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 指さし確認などによるコミュニケーション研修の開催・ 外国人を招いてのロールプレイ接客研修の開催 |

5-4 P D C Aを回すための観光統計の整備

1) 観光入込統計の充実並びに観光客・市民意識調査の定期的実施

| 取組の内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 観光振興の成果指標に関する現状値を把握・ 既存の観光入込統計調査の精度向上（サンプル数、調査項目、調査地点、宿泊客推計手法検討など）・ 市民意識調査や県外在住者のえびの市のイメージ調査等を定期的に実施・ 外国人観光客に対する観光動向調査、満足度調査等を実施 |

2) えびの観光地域づくりプラットフォーム（仮称）の設立

| 取組の内容 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 観光DMOの設立を見据えて、えびの市の観光地域づくりをマネジメントするえびの観光地域づくりプラットフォーム（仮称）を設立・ えびの市、民間事業者等と連携し、収益事業の企画・実施・ えびの市、民間事業者等と連携したプロモーションの実施・ 観光動向調査、満足度調査等を主体として実施 |

(6) 重点プロジェクト

えびの市の観光振興を推進するため、効果的かつ喫緊の課題であるものを重点プロジェクトとして優先順位を高めて実施していく。

1) アウトドア拠点整備プロジェクト

道の駅に併設予定のアウトドア拠点を、えびの市の新たな観光拠点、周辺市町村との広域連携によるアウトドア拠点、アウトドアショップの併設など、多くの方がアウトドアに触れる拠点として整備する。

- えびの市周辺で体験できるアウトドア（パラグライダー、トレッキング、サイクリングなど）に加え、新たなアウトドアの開発を行い、それらを案内、体験プログラムの申込みができる窓口を設置する。
- えびの市周辺で体験できるアウトドアに関連する商品を購入できるアウトドアショップを整備する。
- 週末には、ミニボルダリング、スラックラインなどを敷地内で楽しめるアウトドアイベントを開催する。



ミニボルダリング



スラックライン



アウトドアギアの展示

武蔵丘陵森林公園のアウトドアパーク 2016 の様子（武蔵丘陵森林公園ウェブサイト）

2) 道の駅の活性化プロジェクト

多くの観光客が立ち寄る「道の駅えびの」を、観光情報発信の拠点、交通の拠点、食の拠点として魅力を向上させる。

- 現在のバイキングレストランの食材（米、野菜、卵、肉など）を、質を向上させ、より地元産品にこだわり、えびの市産の食材を味わえるバイキングとする。
- 観光案内所の機能を拡充し、えびの市内・周辺地域の体験プログラムの申込、宿泊施設の予約等をできるようにする。
- 高速バスを利用する観光客が、えびの市内を周遊できるよう、観光タクシーの導入、レンタサイクル事業の早期実施を検討する。
- 道の駅に併設予定のアウトドア拠点との連携により新たな魅力を創造し更なる誘客につなげる。



地元食材のバイキング
（鳥羽国際ホテル WEB サイトより）



観光案内所イメージ
（JR 姫路駅）



レンタサイクル
（WISM レンタサイクル（神宮前））

3) 史跡めぐりプラン創出プロジェクト

市内に存在する田の神さあ、島津義弘の歴史、古墳、歴史民俗資料館などの歴史・文化資源を活用する周遊プランを創出する。

- 道の駅などを拠点とした史跡めぐり、田の神さあめぐり、島津義弘の軌跡めぐりなどのプランを開発し、オプションツアーとして提供できるようにする。
- 上記のオプションツアーに、市民がガイドとして参画できる仕組みを構築するとともに、歴史・文化ガイドを養成する。



田の神さあ
(えびの市観光協会ウェブサイトより)



歴史ガイドの様子
(加西市立北条小学校ウェブサイトより)



島内地下式横穴墓群
(えびの市ウェブサイトより)

4) 京町温泉のブランディングプロジェクト

大正初期からの歴史を持つ京町温泉郷では、昭和の温泉郷の名残を残す風景が点在している。これら魅力的な風景を際立たせるとともに、全体の統一イメージを醸成するため、夜景、イベントにより演出し、「楽しいイベントが開催される京町温泉」としてのイメージを確立させる。

- 京町温泉の夜景づくりガイドラインなどを整備し、夜景による統一的景観を創出する。
- 夜間のイベント（ナイトマーケット、京町温泉映画祭など）を実施し、人が集まる仕組みを構築する。
- 浴衣割引キャンペーン等を開催し、浴衣を着て京町温泉郷の飲食店に入ると、割引になるキャンペーンを実施、観光客も地元住民も積極的に浴衣で歩くことを促す。



ライトアップイメージ
(倉敷美観地区の夜景)



秩父のナイトバザール
(J-NET21WEB サイトより)



浴衣イベント
(GIFU MATIC PROJECT
WEB サイトより)

5) えびの高原・白鳥温泉魅力化プロジェクト

えびの市の観光の拠点である、えびの高原・白鳥温泉を、より利用しやすく、楽しめる観光地としてハード・ソフトの両面から整備を進める。

- 安全で快適に山歩きができるよう、遊歩道整備、案内サインの整備などを強化する。
- キャンプ場のケビンなどの施設の整備・改修も行い、質の高いキャンプができ、快適な滞在を可能にする環境を整える。
- 外国人観光客にも対応するようピクトグラムや多言語対応したサインを整備する。
- 加久藤カルデラ、霧島ジオパークを満喫できるように、有償ガイドによるツアーを商品化し、えびのエコミュージアムセンター、白鳥温泉、道の駅えびのなどで販売できるようにする。



ガイドツアーの様子
(阿蘇草原補選活動センター
ウェブサイトより)



質の高いケビン
(CAMP HACK ウェブサイトより)

図表1 店内表示で利用可能な代表的な英語表記・記号

| 会計 | 案内所 | お手洗 | エレベーター | エスカレーター | 階段 |
|-------------------|-----------------------|----------------|--------------|-------------|------------|
| Cashier | Information | Toilets | Elevator | Escalator | Stairs |
| ¥ | ? | 男女 | ↑ | ↕ | ↕ |
| 消火器 | 非常ボタン | 非常口 | 静かに | コインロッカー | レストラン |
| Fire extinguisher | Emergency call button | Emergency exit | Quiet please | Coin Locker | Restaurant |
| | | | | | |

ピクトグラム
(インバウンドナビウェブページより)

6) 持続的活動を担保する仕組み作りプロジェクト

前述のプロジェクトを持続的に推進するためにも、活動を支える仕組み・体制が必要となる。観光関連団体、事業者、行政、専門家アドバイザー等からなる研究会を立ち上げ、1年後の目標とそれに至るまでの具体的なスケジュールを立てた上で、事例研究や施策検討、実証実験の実施などを行う。

- 「アウトドア拠点整備プロジェクト」「道の駅の活性化プロジェクト」「史跡めぐりプラン創出プロジェクト」「京町温泉のブランディングプロジェクト」「えびの高原・白鳥温泉魅力化プロジェクト」の5つのプロジェクトの一部、もしくは全てに対し、具体的な内容を検討する研究会を立ち上げる。
- 1年後の目標、それに至るスケジュールを定め、定期的に事例研究や施策検討、実証実験などを行う。検討のための検討ではなく、具体のプロジェクト実現に向けた研究会とする。

(7) 効果把握手法と目標値

えびの市の観光振興策を展開するに当たり、定期的にその効果測定を行い、計画の進捗や改善点の検討を行うことが必要である。

しかし、現状、えびの市の観光関連の統計データは乏しく、入込客数、宿泊客数、経済波及効果等の現状データを継続的に調査・整備することが必要である。

現状で設定し得るえびの市の観光振興の効果測定指標と目標値の案を下表に示す。

効果測定に使用する指標（案）

| 効果の視点 | 項目 | 現状 (基準値) | 目標値 (平成 33 年度) |
|----------------------------|--|-------------------------------|-------------------|
| ①どれくらいの人がえびの市を訪れているか | a.観光入込客数（人） | 174 万人 (H27) | 200 万人 |
| | b.京町温泉入込客数（人） | 21 万人 (H27) | 40 万人 |
| | c.スポーツ団体受入数（団体） | 75 団体 (H27) | 100 団体 |
| | d.宿泊施設稼働率（%） | — | 65% |
| ②滞在・消費がどれくらいあるか | e.えびの市内消費単価 (円/人・日) | 1050 円/人・日 (H28) | 3,000 円/人・日 |
| | f.日帰り観光客の平均滞在時間 (時間/人) | 3 時間 30 分 (H28) | 7 時間 |
| ③地区内既存産業にどれくらい波及効果があるか | g.地域内調達率（%）※ ※観光関連事業所の「仕入れ・材料費」、「外注費」のうち、主なものの支払先地域 | — | 60% |
| ④観光振興の結果として地域全体がどれだけ活性化したか | h.市町村民所得 (円/人) | 1,962,207 円/人 (H25 市町村民所得) | 2,500,000 円/人 |
| | i.市町村内総生産 ※サービス業の実数 (円/人) | 220,180 円/人 (H25 経済計算) | 281,000 円/人 |

※ 地域内調達率

地域内調達率という指標は、観光関連事業者（宿泊施設、飲食施設、土産品店・小売店、交通事業者、観光施設など）及びその事業者が取引を行っている事業者（農林漁業者、製造業者、卸売業など）に対して調査を実施することにより、各事業者が域内の取引先・仕入れ先から仕入れている割合を把握する。

「域内調達率」については、比率が高ければ地域に落とされる金額が大きくなるため、経済波及効果が高まることとなる。逆に比率が低いと、地域外に流出する金額が大きくなるため、経済波及効果は限られることとなる。このため、いかにして域内調達率を高めるかが重要となる。調査対象となる事業者については、観光関連事業者は基本的に全て該当し、農林漁業者、製造業者、卸売業等については、「宿泊サービス」「飲食サービス」「小売」との取引がある事業者全てを対象とする（実際には、その中から調査協力を得られた事業者に対して調査を行うこととなる）。調査方法としては、アンケート調査及びヒアリング調査があげられる。

(8) 施策実施スケジュール

| | | 計画期間（5カ年） | | | | |
|-----------------------------------|--------------------------|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 施策 | | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 |
| 1.既存資源の磨き上げ・商品化 | 1-1 えびの観光の拠点施設整備 | | | | | |
| | 1) アウトドア拠点の整備 | ● | → | | | |
| | 2) 農の拠点の整備 | ● | → | | | |
| | 3) 観光案内所の拡充 | | ● | → | | |
| | 1-2 民間企業と連携した魅力向上 | | | | | |
| | 1) 産業観光の推進 | ● | → | | | |
| | 2) 京町温泉×コカ・コーラの推進 | ● | → | | | |
| | 3) 道の駅えびの×アウトドアメーカー | | ● | → | | |
| | 1-3 えびの高原・白鳥温泉の魅力化 | | | | | |
| | 1) 遊歩道、サイン、施設等の整備 | | ● | → | | |
| | 2) 観光ガイドの充実 | | ● | → | | |
| | 1-4 京町温泉の魅力向上 | | | | | |
| | 1) 温泉街としての街並みの創出 | ● | → | | | |
| | 2) 京町温泉を楽しむイベントの創出 | ● | → | | | |
| | 3) 空き家・空き店舗活用 | | | ● | → | |
| | 4) 観光交流センター（仮称）の活用 | | | ● | → | |
| | 5) 廃業支援・事業継承支援の実施 | | | ● | → | |
| | 6) 温泉街全体の予約手配サイトの構築 | | | ● | → | |
| | 1-5 えびの市内の回遊性向上 | | | | | |
| | 1) ストーリー性のある周遊ルートづくり | ● | → | | | |
| 2) 温泉ガイド、農村ガイドの育成 | | ● | → | | | |
| 2.地域内経済循環の仕組み構築 | 2-1 他産業と連携した観光産業の魅力化 | | | | | |
| | 1) 地元産農畜製品のブランディング | | ● | → | | |
| | 2) 地元産業等とデザイナーとの連携 | | | ● | → | |
| | 2-2 教育旅行と連携した農家民泊の推進 | | | | | |
| | 1) 農家民泊の推進 | ● | → | | | |
| | 2-3 スポーツ合宿の受入れ体制整備 | | | | | |
| | 1) スポーツ合宿参加者への助成制度 | ● | → | | | |
| 3.情報発信（外への発信、地域内の資源を結ぶ発信） | 3-1 効果的なプロモーション体制の構築 | | | | | |
| | 1) 情報発信媒体の多様化・マスコミ媒体との連携 | ● | → | | | |
| | 2) 旅行会社等への営業強化 | ● | → | | | |
| | 3-2 ドライブマップの作成・配布 | | | | | |
| 1) 自家用車・レンタカー利用者に特化したマップ・案内サインの整備 | | ● | → | | | |

| | | | | |
|------------------------|--------------------------------------|--|--|--|
| | 3-3 県内外への効果的な情報発信 | | | |
| | 1) 国内ターゲット層のニーズを踏まえた情報発信 | | | |
| | 2) 地域内滞在中の観光客への適切な情報発信 | | | |
| | 3) 海外市場に対する誘客戦略・プロモーション | | | |
| | 4) 口コミ・SNS 情報の展開～住民と観光客によるシティセールスの展開 | | | |
| | 3-4 鹿児島空港での積極的な情報発信 | | | |
| | 1) 鹿児島空港内における宮崎県の情報発信強化 | | | |
| | 3-5 一元的な情報発信窓口の整備 | | | |
| | 1) 観光情報の一元化 | | | |
| 4.広域周遊 観光の仕 組み構築 | 4-1 えびの高原・京町温泉・道の駅を結ぶ公共交通の整備 | | | |
| | 1) 市内を周遊する二次交通ネットワークの整備 | | | |
| | 2) えびのの景色を満喫するレンタカー事業の実施 | | | |
| | 3) JR 吉都線・肥薩線を活用した誘客力の向上 | | | |
| 5.受入体制 の構築・ 人材育成 | 5-1 観光受入れ人材の育成 | | | |
| | 1) 内発的に地域の魅力を発信する人材育成・体制づくり | | | |
| | 2) 観光ガイドの育成とネットワーク化 | | | |
| | 3) 学校における観光人材育成の強化 | | | |
| | 5-2 地域住民の観光活動への理解醸成 | | | |
| | 1) 地域住民の観光活動への理解醸成 | | | |
| | 2) 地域ぐるみのおもてなしの展開 | | | |
| | 5-3 インバウンドの受入体制整備 | | | |
| | 1) 観光施設等の受入環境の評価の実施 | | | |
| | 2) 言語に依存しないおもてなし手法 | | | |
| | 5-4 PDCAを回すための観光統計の整備 | | | |
| | 1) 観光入込統計の充実並びに観光客・市民意識調査の定期的実施 | | | |
| | 2) えびの観光地域づくりプラットフォーム（仮称）の設立 | | | |

(9) 計画の推進体制

本計画で示したえびの市の観光のコンセプトに基づき、施策を推進していくため、観光業界だけでなく農業、工業、環境、まちづくり、市民生活等々、他の分野の取り組みと連携した横断的な推進体制が求められる。

① 民間による推進体制の確立（えびの観光地域づくりプラットフォーム（仮称）の設立）

民間におけるえびの市の観光推進体制においては、えびの市内外のマネジメントを行い、観光施策を推進する組織（えびの観光地域づくりプラットフォーム（仮称））を設立し、観光分野以外も含めた民間団体・企業との連携を深めることが重要である。特に、将来的にえびの市の観光DMOとしての機能を担うべく、プロモーション活動や新規コンテンツの共同開発や流通等、民間事業者同士が連携すべき取り組みに対するプラットフォームとしての機能を充実させることが期待される。（例えば、えびの市観光協会が機能を拡充して、えびの観光地域づくりプラットフォーム（仮称）を設置することが考えられる）

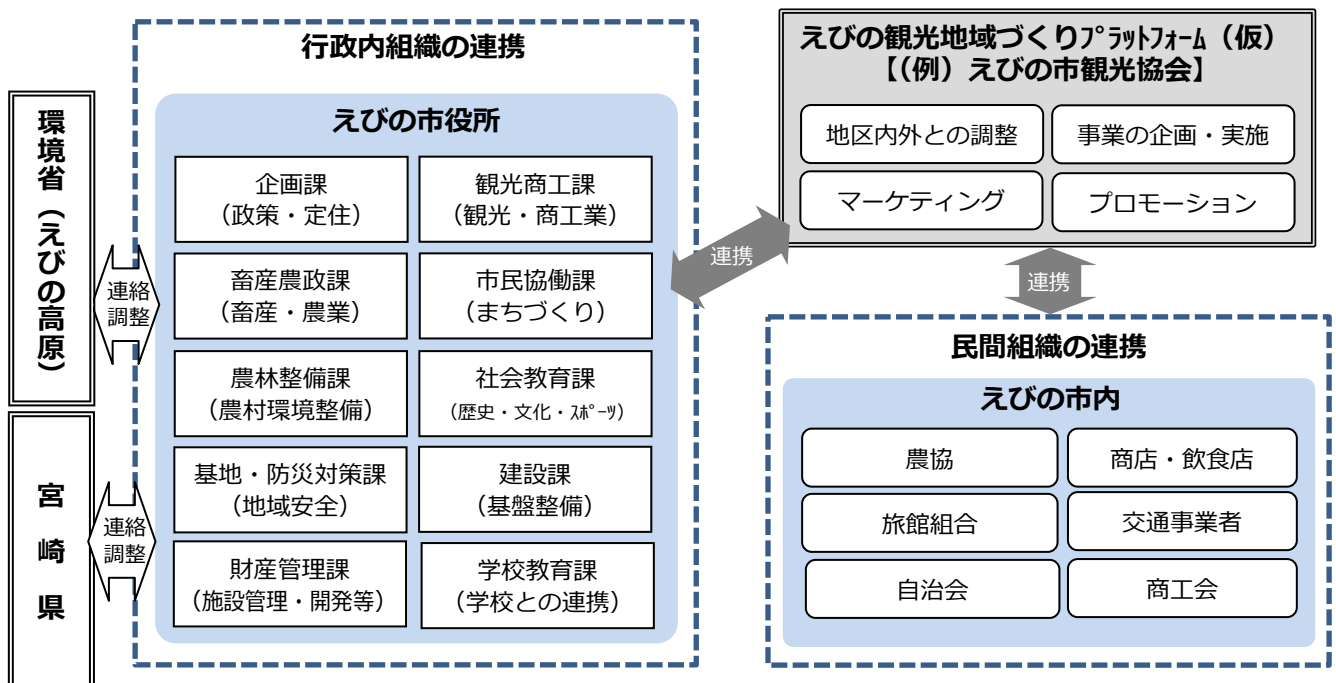
こうした観光地における民間のプラットフォーム機能の確立のためには、持続可能な、自立した財務基盤と、これらの活動が可能な人材の育成と活用が不可欠である。そのため、収益事業の実施検討も視野に入れた組織体制の検討が求められる。

② 行政内組織の横断的連携機能の充実

行政内においては、えびの市観光商工課が、えびの観光地域づくりプラットフォーム（仮称）をはじめ、観光関連団体・事業者との窓口機能の役割を担いながら、庁内関係課との横断的連携によって総合的な施策の推進と民間支援の充実を図る。宮崎県との調整・連携も重要であり、企画調整担当部署との密な連携が必要である。

③ 官民の密接な連携による推進

行政内と民間の綿密な横断的連携体制を確立することで、官民がえびの市の観光の将来像を共有し、それぞれの役割分担を踏まえた上で計画の実現に取り組む。



観光施策推進体制のイメージ

(10) 計画の推進と進捗管理手法

本計画は5年後の平成33年度を目標としているが、その間に内外の情勢や環境が変化することが予想され、必要に応じた計画の軌道修正が必要となる。そこで、PDCAサイクルに基づく、観光振興計画の進捗管理の仕組みを確立することが望ましい。

① 計画進捗評価

計画の進捗管理にあたっては、下記の視点で評価することが望ましい。

1) 施策が計画スケジュールに沿って動き出しているか

施策の動き出しが当初の計画スケジュールに沿って進められているか、進んでいない場合の障壁は何か検証する。

2) 取り組み内容が計画の趣旨、狙いに沿っているか

実行中の施策の方向や内容が計画の趣旨に沿っているかについて検証する。

3) 推進主体と関係者との連携体制が出来ているか

推進体制として実施主体だけでなく、横断的な連携が出来ているかについて検証する。

4) 実行した施策の効果はどうか

実行に至った施策について、その効果を定量的、定性的に検証する。

5) 計画目標数値の途中経過はどうか

5年後の計画目標数値達成のプロセスとして、その進捗や経過数値の要因について検証する。

② 観光振興計画へのフィードバックと修正

計画進捗評価と環境変化などを踏まえて、必要に応じ、施策の一部修正や計画の円滑な実施を可能とするための方策を検討する。

5. 関連資料

(1) えびの市観光審議会条例

(平成元年 3 月 27 日えびの市条例第 3 号)

改正 平成 16 年 12 月 28 日条例第 20 号

(設置)

第 1 条 観光の総合的な振興に資するため、観光審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 観光の振興を図るための基本的な計画に関すること。
- (2) 観光の開発の推進に関すること。
- (3) 観光思想の普及及び観光客の誘致に関すること。
- (4) その他観光の振興に係る重要な事項に関すること。

2 審議会は、前項に規定する事項に関し、市長に意見を述べることができる。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 15 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 観光関連団体に属する者
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) その他市長が必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第 5 条 審議会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した委員が、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会議の議長は、会長をもって充てる。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(幹事)

第 7 条 審議会に、幹事を置く。

- 2 幹事は、市職員のうちから市長が任命する。
- 3 幹事は、審議会の所掌事務について、委員を補佐する。

(庶務)

第 8 条 審議会の庶務は、観光商工課において処理する。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 16 年 12 月 28 日条例第 20 号)

この条例は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

(2) えびの市観光審議会 名簿

| 番号 | 役職等 | 氏 名 |
|----|---------------------------------------|--------|
| 1 | 国立大学法人 鹿児島大学 地域防災教育センター 特任教授 | 岩船 昌起 |
| 2 | えびの市史談会 会長 | 亀澤 轟幸 |
| 3 | 公益財団法人みやざき観光コンベンション協会 観光スポーツランド推進局 課長 | 鷹取 善昭 |
| 4 | えびの市観光協会 会長 | 仁科 博 |
| 5 | 京町温泉旅館組合 みなほ会 | 中村 恵 |
| 6 | えびの市スポーツ観光推進協議会 会長 | 豊田 寧仁 |
| 7 | えびの市商工会 | 田上 みゆき |
| 8 | えびの市農業協同組合 常務理事 | 境田 隆 |
| 9 | えびの市物産振興協会 副会長 | 本田 英俊 |
| 10 | えびの青年会議所 理事長 | 明石 太暢 |
| 11 | 北きりしま田舎物語推進協議会 受入れ拡大推進 えびの会議 会長 | 上畠 勝 |
| 12 | えびのガイドクラブ 事務局長 | 上園 信一 |
| 13 | 一般公募 | 廣澤 順也 |